平成 25 年度

愛知県埋蔵文化財センター

年報

2014

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

目　　次

Ⅰ.平成25年度事業概要 …… 1
調査の理由と工程 …… 2
平成25年度　調査遺跡位置図 …… 4

Ⅱ.遺跡調査の概要 …… 7
稲沢市　北丹波・東流遺跡 …… 8
安城市　五反田遺跡…… 10
下懸遺跡 …… 12
下懸遺跡…… 14
寄島遺跡…… 16
宮下遺跡…… 18
岡崎市　八畝畑遺跡 …… 20
豊田市　孫石遺跡 …… 24
栗狭間遺跡 …… 30
トヨガ下遺跡 …… 34
豊橋市　野添遺跡 …… 38
豊田市　西平地遺跡（範囲確認調査） …… 40
設楽町　滝瀬遺跡始め4遺跡（範囲確認調査） …… 42

Ⅲ.刊行報告書抄録 …… 45
第182集　松崎遺跡Ⅱ　上浜田遺跡 …… 46
第184集　須長10号墳 …… 48
第185集　東屋敷遺跡 …… 50
第186集　一色青海遺跡Ⅲ …… 52
第188集　キジ山古墳群・晴雲寺址 …… 54

Ⅳ.埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会の記録 …… 57
平成25年度埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会について …… 58
第2回 考古学セミナー「あいちの考古学2013」の記録 …… 64

Ⅴ.埋蔵文化財センターの活動 …… 67
資料の貸出・提供 …… 68
ホームページほか …… 70
現地説明会・地元説明会・遺跡報告会・ …… 74
報告書作成および発掘調査現場における遺構・遺物の指導 …… 74
その他普及事業 …… 74
平成25年度愛知県埋蔵文化財センター組織一覧 …… 75

Ⅰ. 平成 25 年度事業概要

調査の理由と工程

1．発掘調査

事業主体		事業名	遺跡名	調査面積（㎡）	調査期間	調査担当
県企業庁 研究施設 用地開発課	豊田 工事事務所	豊田・岡崎地区 研究開発施設 用地 造成事業	孫石遺跡	7,630	平成 25 年 5 月 ～平成 25 年 11 月	鈴木 ・小澤
			栗狭間遺跡	3,170	平成 25 年 5 月 ～平成 25 年 11 月	武部
			トヨガ下遺跡	3,000	平成 25 年 11 月 ～平成 25 年 12 月	鈴木・武部 ・小澤
県建設部 都市整備課	一宮 建設事務所	街路改良工事 （都）名古屋岐阜線	北丹波・東流遺跡	1,000	平成 25 年 9 月 ～平成 25 年 12 月	永井宏
県建設部 道路建設課	西三河 建設事務所	道路改良工事（交付金） （主）岡崎碧南線	八畝畑遺跡	3,500	平成 25 年 5 月 ～平成 25 年 10 月	松田
	東三河 建設事務所	道路改良工事 （主）東三河環状線	野添遺跡	2,000	平成 25 年 11 月 ～平成 26 年 3 月	松田
県建設部 河川課	知立 建設事務所	床上浸水対策 特別緊急事業 （鹿乗川）	下懸遺跡	1,600	平成 25 年 6 月 ～平成 25 年 10 月	酒井
			五反田遺跡	450	平成 25 年 5 月 ～平成 25 年 6 月	酒井
		中小河川改良事業 （鹿乗川）	寄島遺跡	2,110	平成 25 年 11 月 ～平成 26 年 3 月	酒井
			下懸遺跡	540	平成 25 年 11 月 ～平成 26 年 3 月	宮腰
			宮下遺跡	200	平成 25 年 12 月 ～平成 26 年 1 月	宮腰
国土交通省 中部地方整備局	設楽ダム 工事事務所	設楽ダム	滝瀬遺跡始め 4 遺跡（範囲確認）	400	平成 25 年 5 月 ～平成 25 年 6 月	永井邦
	名四国道 事務所	一般国道 153 号 豊田北バイパス	西平地遺跡 （範囲確認）	200	平成 26 年 2 月	鈴木

計 25,800㎡

２．整理・報告書編集

	事業主体		事業名	遺跡名	調査面積（㎡）	調査年度
整理	中日本高速道路株式会社	豊川工事事務所	第二東海自動車道横浜名古屋線	モリ下遺跡	6,600	H.20～21
	県建設部	道路建設課	道路改良工事（主）岡崎足助線	車塚遺跡	9,490	H.20～23
整理・報告書作成	中日本高速道路株式会社	豊川工事事務所	第二東海自動車道横浜名古屋線	欠下城跡	2,500	H.22
				中山砦跡	2,830	H.22
				吉竹遺跡	600	H.20～21
				加原遺跡	2,000	H.20
				石岸遺跡	800	H.20
				石座神社遺跡	20,250	H.20～22
	県建設部	道路建設課	緊急地方道路整備事業（主）名古屋江南線	下新田遺跡	2,100	H.21
		都市整備課	連続立体交差事業	松崎遺跡・上浜田遺跡	8,300	H.20・22
		下水道課	日光川上流流域下水道事業	一色青海遺跡	5,500	H.21

３．平成25年度刊行物

・埋蔵文化財報告書（計５冊）

第182集　松崎遺跡 II　上浜田遺跡

第184集　須長10号墳

第185集　東屋敷遺跡

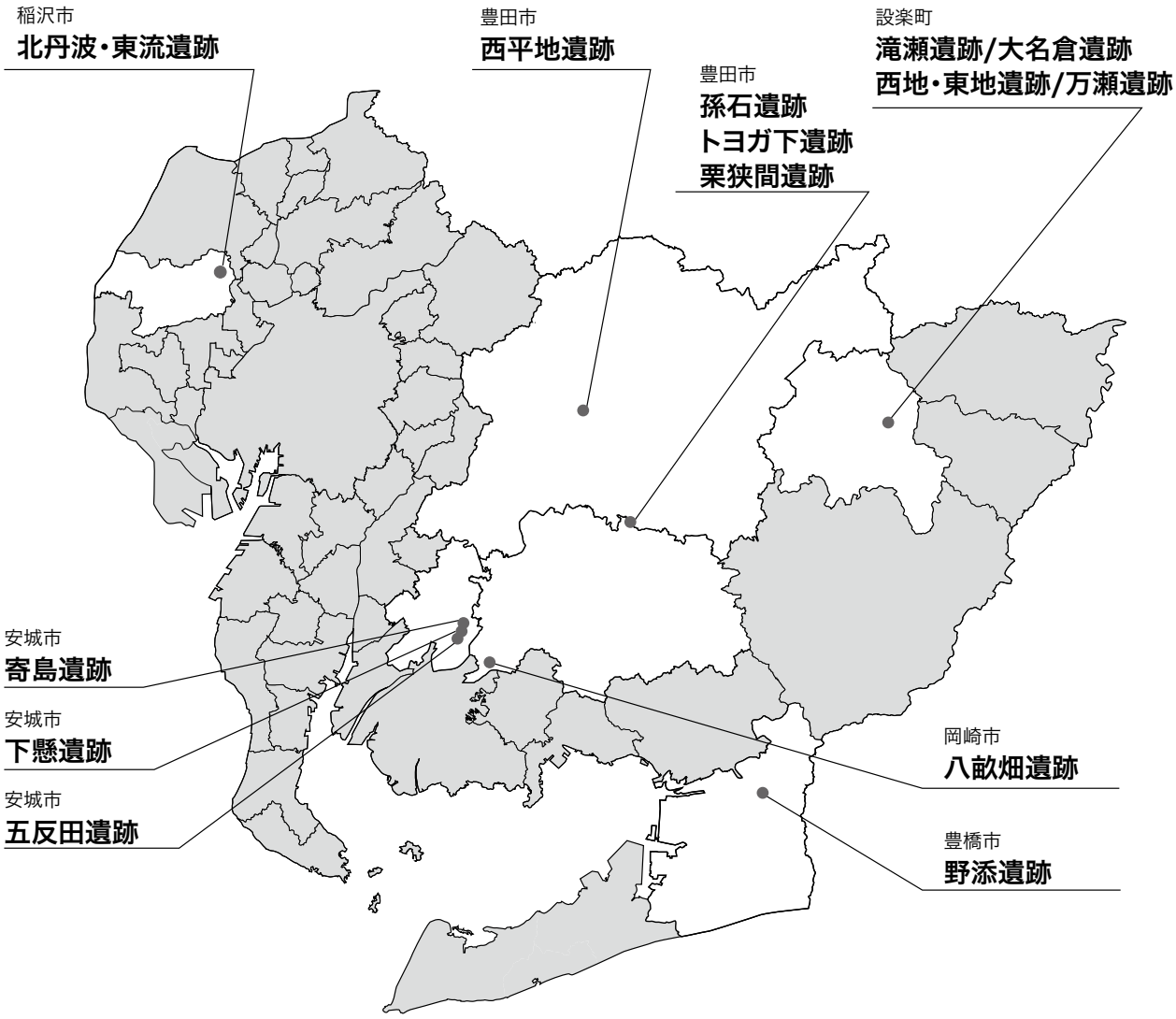
第186集　一色青海遺跡 III

第188集　キジ山古墳群・晴雲寺址

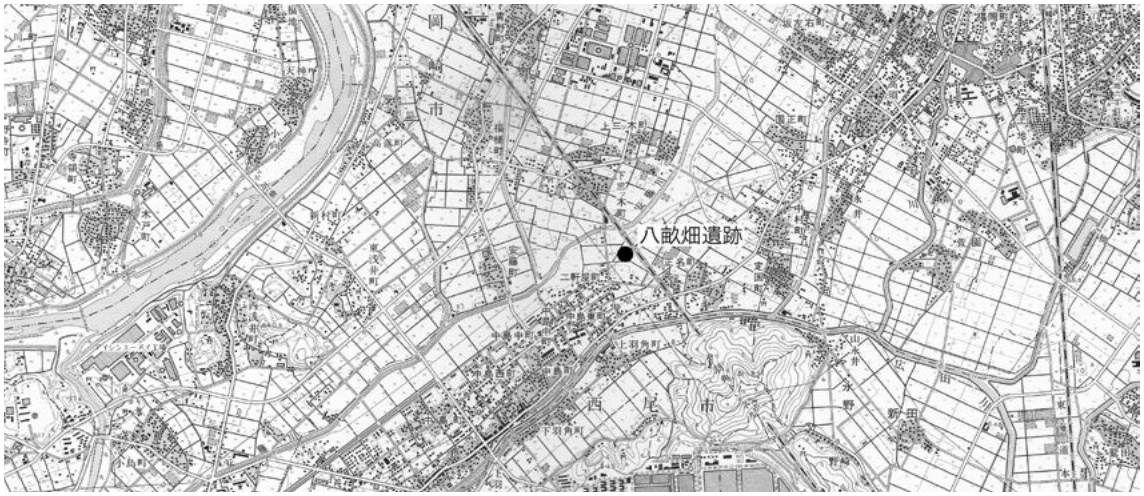
・平成 25 年度　愛知県埋蔵文化財センター年報

・研究紀要　第 15 号

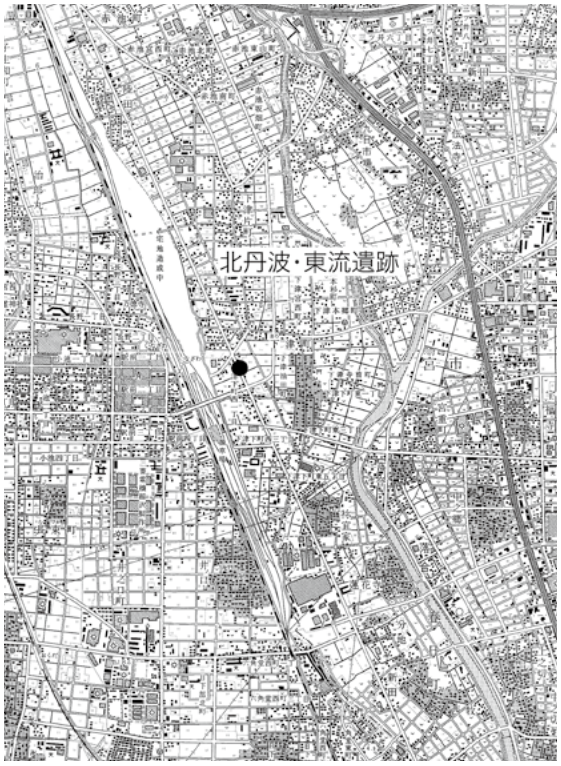
平成２５年度　調査遺跡位置図



※ 地形図は 50%縮小されています。



国土地理院 1/2.5 万地形図「西尾・幸田」



国土地理院 1/2.5 万地形図「一宮・清洲」



国土地理院 1/2.5 万地形図「豊田北」

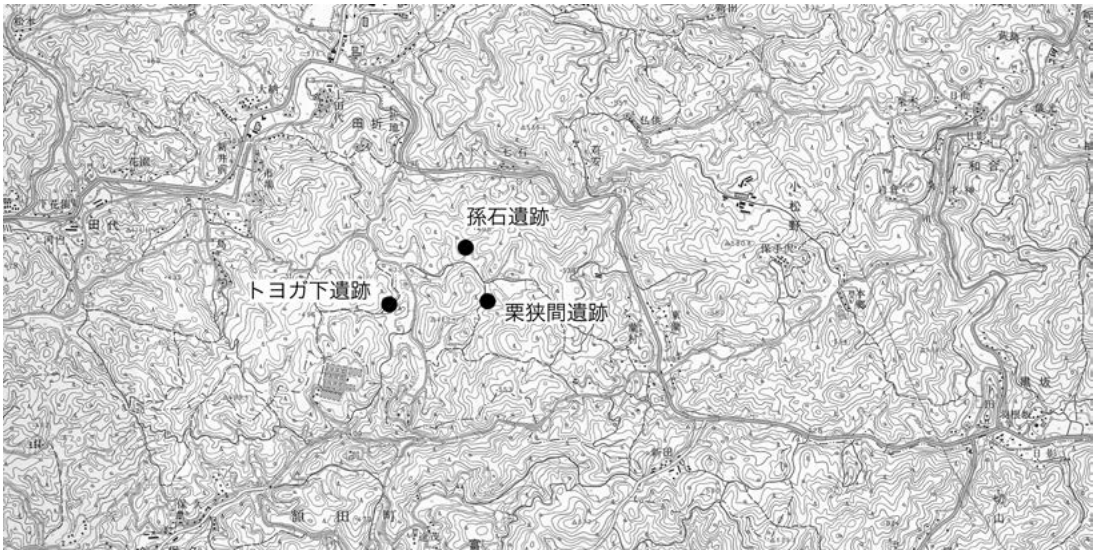


国土地理院 1/2.5 万地形図「安城・西尾」

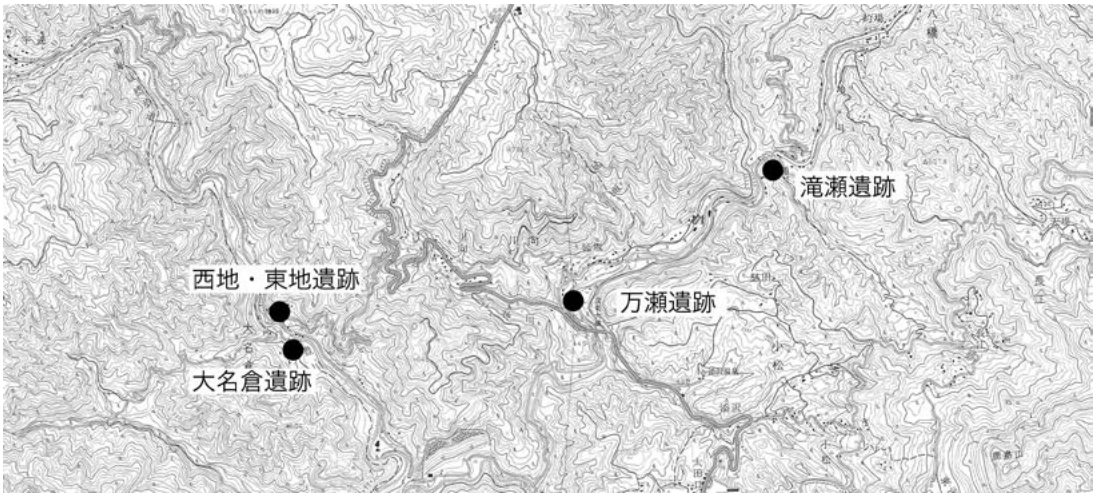


国土地理院 1/2.5 万地形図「豊橋」

※ 地形図は 50%縮小されています。



国土地理院 1/2.5 万地形図「大沼」



国土地理院 1/2.5 万地形図「田口」

※ 地形図は 50%縮小されています。

北丹波・東流遺跡（きたたんば ひがしながれ）

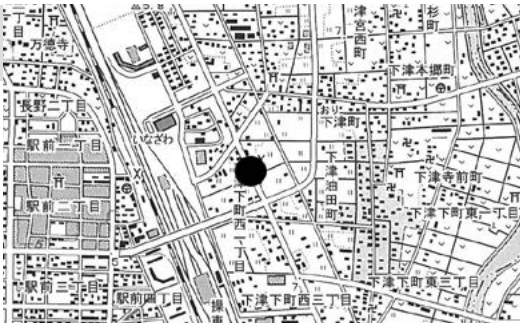
所　在　地　稲沢市下津丹下田町・下津森町・下津下町西一丁目
（北緯35度15分6秒 東経136度49分39秒）

調 査 理 由　街路改良工事（都）名古屋岐阜線

調 査 期 間　平成25年11月～平成26年2月

調 査 面 積　1,000㎡

担　当　者　永井宏幸



調査地点（1/2.5万「一宮」）

調査の経過　県道名古屋岐阜線の街路改良工事事業にともなう事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて、愛知県埋蔵文化財センターが委託を受け、発掘調査を実施した。調査は、昨年度に2,320㎡、今年度に1,000㎡おこなった。調査区は現道に沿って、街路改良部分を対象とした。南北に延びる県道に対して、東西方向を横断する公道などを境に、便宜上13Ａ～13E区の都合５つの調査区に分けて調査を進めた。なお、今年度は県道の西側をおもに調査した。

立地と環境　遺跡は、遺跡の北東側にある青木川右岸に広がる自然堤防およびその後背湿地に立地する。標高は現況４～５ｍ前後である。遺跡範囲と明治17年地籍図から当時の土地利用を照合してみると、この中央付近に北東から南西にかけて水田がある。そのほかは概ね畑地利用であった。つまり、遺跡は微高地上に展開し、その中央に低い部分が横断する景観が地籍図から読み取れる。調査の結果、低い部分に古代の自然河道が確認され、この部分は周辺に比べ地下水位が高く、調査中湧水に悩まされた。

調査の概要　調査の結果、昨年度に引き続き古墳時代前期、奈良時代初頭を中心とした古代前半期、鎌倉時代初頭を中心とした中世前半期、以上大きく3つの時期を中心に遺構が展開することが再確認された。

古墳時代の遺構は遺跡の北寄りで溝を確認した。農水路と推定した昨年度の調査で検出した溝の規模は、幅1.0m、深さ0.6mのものが最も多かった。この規模を基準にすると、13A区001SDと13C区045SDは標準サイズの溝、13B区003SDはこれらに比べ1/2程度の溝を確認した。農水路とすれば、幹路と枝路になるかもしれない。遺物は13C区に古墳時代の甕などが少量出土した程度で、昨年度にくらべ少ない。時期は層序に準拠して古墳時代前期と考えた。なお、13B区溝003SD周辺の水田耕作土層以外に耕作地に関連する痕跡は認められなかった。

古代の遺構はほぼ全域に展開していた。13C・13D・13Ec区では竪穴建物を確認した。13C区竪穴建物043SIは、南北軸4.8m、深さ55cmを測り、壁際に壁溝がめぐる。北辺に焼土と炭化物が集中する箇所があり、カマドの可能性がある。13Ec区020SXは造り付けカマドをもつ竪穴建物で、遺物量も多く、カマドに小型の伊勢甕が倒立状態で出土した。いずれも８世紀初頭前後を中心とする時期である。

12世紀後半から13世紀前半を中心とした中世の遺構は、13C・13D・13Ebで確認した。そのなかでも13C区は、掘立柱建物が想定できるピット列などを検出した。この調査区は、他の調査区にくらべ後世の削平が少なかった。古代の遺構より30cmほど高い位置で中世の遺構を確認できた。昨年度、12F区などで確認した幅３m、深さ約1mの溝を13D区と13Eb区でも確認した。13D区溝002SDは敷地を区画する溝の南西隅に相当し、調査区内

で直角に屈曲する。13Eb区溝008SDは尾張型６型式碗皿類を中心に青磁の瓶類底部などがまとまって出土した。

ま と め　本年度の成果として特筆すべき点は、中世前半期の遺構群である。昨年度、井戸群を確認した12C区、大溝を確認した12F区は遺跡の北側で、一般的な屋敷地より規模の大きい区画を想定した。本年度は遺跡南側の溝の存在によって少なくとも２区画以上新たに確認したことになる。

これら区画の位置付けは今後の課題であるが、これまでに中世前半期を中心とする遺跡が周辺に存在しなかったことと、この時期に前後する下津北山遺跡と下津宿遺跡が中世国府・国衙に関連する遺跡として指摘されていることからも、中世前半期の注目すべき遺跡となった。（永井宏幸）

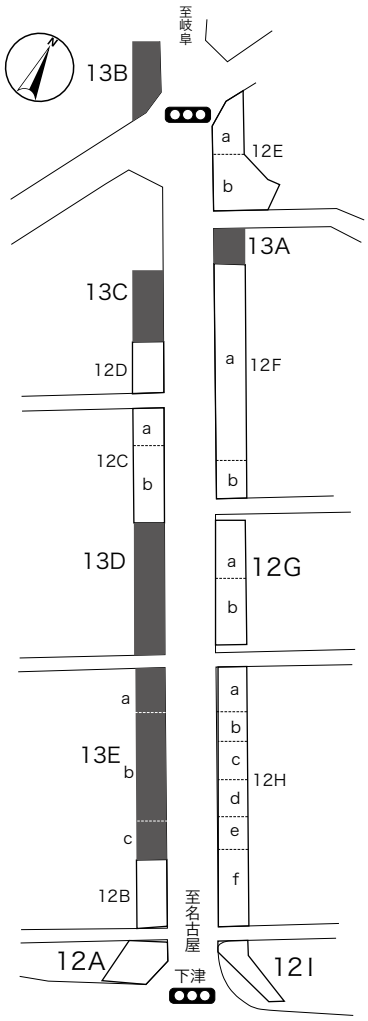
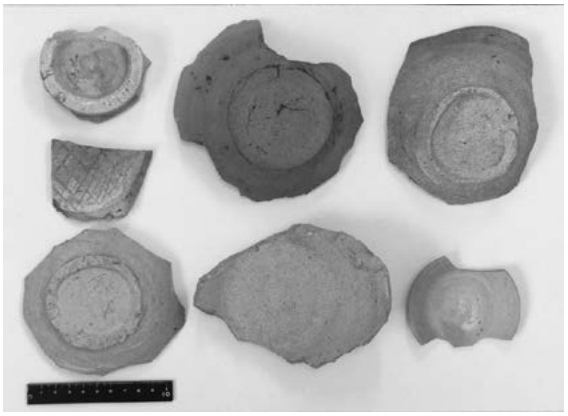


図1 調査区位置図（1:2,000）



13Eb区008SD出土遺物



13D区002SD



13Eb区008SD

五反田（ごたんだ）遺跡

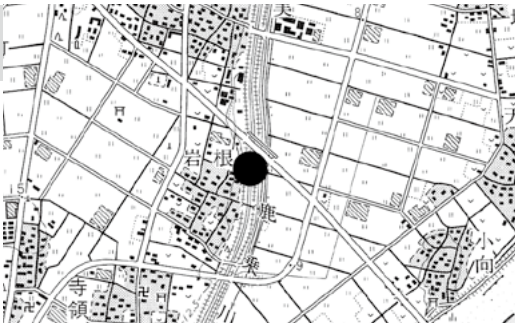
所　在　地　安城市小川町五反田・岩根下
（北緯34度54分13秒 東経137度5分43秒）

調 査 理 由　床上浸水対策特別緊急事業（鹿乗川）

調 査 期 間　平成 25 年 5 月～平成 25 年 6 月

調 査 面 積　450㎡

担　当　者　酒井俊彦



調査地点（1/2.5万「西尾」）

調査の経過　調査は一般河川鹿乗川改修工事に伴い、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて当センターが委託を受けて実施したものである。本遺跡は平成22年度に調査を行い、今回を含めた総調査総面積は2170㎡である。今年度は、平成22年度調査区西側に位置する鹿乗川と導水路の間の調査を行った。

立地と環境　本遺跡は矢作川下流域、鹿乗川左岸の沖積地に立地する。右岸の碧海台地上には姫小川古墳などの古墳群が展開し、平成12年より本センターが調査を行っている鹿乗川左岸には、北から南にかけて姫下、寄島、下懸、五反田、惣作の5遺跡が連続して所在する。鹿乗川は碧海台地東辺を直線的に南流し、川の西側の遺跡周辺は平坦な沖積地である。旧鹿乗川は矢作川沖積地を蛇行して走り、本遺跡及び惣作遺跡、寄島遺跡等で東西方向の旧河道が確認されている。遺跡はこの旧河川の自然堤防上に展開する。標高は5～6mである。平成22年度の調査では上面で近世および中世の遺構が検出され、下面では弥生時代後期から古墳時代初めの時期の方形周溝墓などの遺構が検出されている。

調査の概要　今回の調査では、上下2面の調査を行った。調査区は鹿乗川と導水路の間の現堤防下に当たり、鹿乗川に近接している。上面は堤防の盛り土下の近代の水田耕作土層下面で検出を行い、明確な遺構は確認されなかった。下面は中世の耕作土層下にある遺物包含層である黒色土層で行い、明確な遺構は確認されなかった。包含層下は灰色シルトの基盤面となる。調査区の南部の大部分は現鹿乗川に沿う旧河道の縁辺に位置し、基盤面は南に緩やかに下降する。調査区北端で標高約6m、南端で同5.5mである。北端を除いて、包含層上に河道を埋積する湿地性の堆積層があり、南ほど厚くなる。湿地性の堆積物からは平安時代から中世の灰釉陶器、山茶碗などの遺物が少量出土する。黒色土層からは古墳時代から奈良時代の遺物が出土した。主な遺物としては、奈良時代の須恵器、古墳時代前半の土師器が検出された。

ま　と　め　今年度の調査は、大部分が旧河道の遺物包含層の調査となり、遺構は確認されなかった。調査区の北部では、平成22年度の調査区とほぼ同じ標高で安定した水平な遺物包含層が検出され、古墳時代旧河道の位置が類推できる情報が得られたことにより、今後は遺跡の展開について検討することができるものと考える。

（酒井俊彦）



調査区全景（南より）



調査区全景（北より）



近世杭列（南より）



旧河道全景（北より）

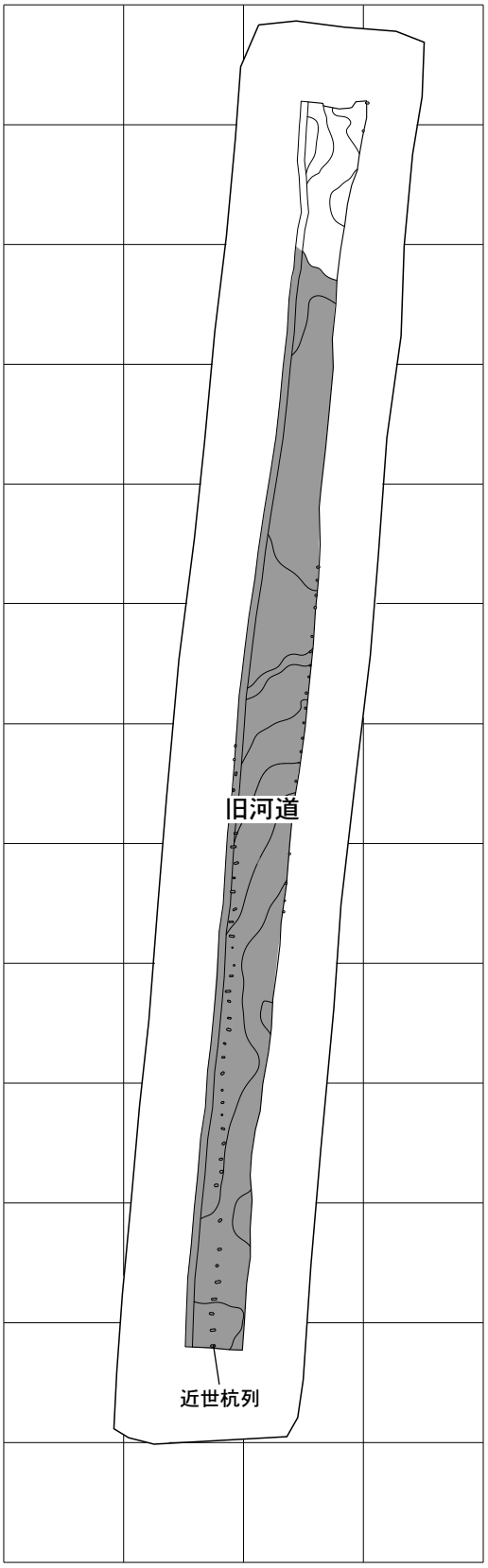


図１　遺構全体図（1:300）

下懸（しもかけ）遺跡

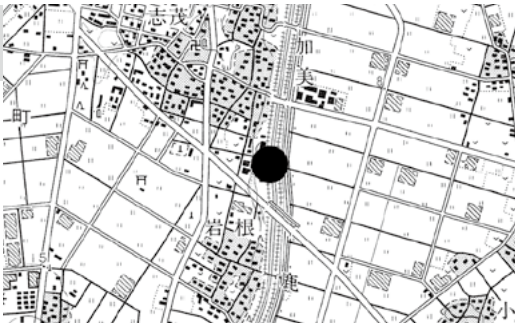
所　在　地　安城市小川町向田
(北緯34度54分20秒 東経137度5分43秒)

調 査 理 由　床上浸水対策特別緊急事業（鹿乗川）

調 査 期 間　平成25年7月～平成25年10月

調 査 面 積　1600 ㎡

担　当　者　酒井俊彦



調査地点（1/2.5万「西尾」）

調査の経過　調査は床上浸水対策得悦緊急事業（鹿乗川）に伴い、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて当センターが委託を受けて実施したものである。本遺跡は平成 12 年度と平成 21 年度に鹿乗川導水路の東側の調査を行っている。今回を含めた総調査総面積は 5010 ㎡である。今年度は、鹿乗川と鹿乗川導水路間の調査を行った。

立地と環境　本遺跡は矢作川下流域、鹿乗川左岸の沖積地に立地する。右岸の碧海台地上には姫小川古墳などの古墳群が展開し、平成 12 年より本センターが調査を行っている鹿乗川左岸には、北から南にかけて姫下、寄島、下懸、五反田、惣作の 5 遺跡が連続して所在する。鹿乗川は碧海台地東辺を直線的に南流し、川の西側の遺跡周辺は平坦な沖積地である。旧鹿乗川は矢作川沖積地を蛇行して走り、本遺跡及び姫下、惣作、寄島で東西方向の旧河道が確認されている。遺跡はこの旧河川の自然堤防上に展開し、標高は 5 ～ 6m である。平成 12･21 年度の調査では弥生時代、古墳時代前期、古代の遺構･遺物が検出されている。また、北西から南東方向に流下する古墳時代以前の旧河道が確認され、古墳時代前半の土器と多量の木製品が出土している。

調査の概要　調査区は鹿乗川と導水路間の現堤防下に当たり、鹿乗川に近接している。今年度は幅約 7m、長さ約 230m の調査区を南半を 13A 区、北半を 13B 区として調査した。今回の調査では、上下 2 面の調査を行った。上面は中世～近世の耕作土層下、奈良時代の遺物包含層である黒色土層上面で行い、13A 区で中世の大形の土坑 2 基を検出した。また、鹿乗川の近世の河道の落ち込みを 13A 区北半で検出し、近世の陶磁器類と木製品が少量出土した。同層面で、古墳時代前期以前の旧河道が 13B 区の北部で確認された。下面は奈良時代および古墳時代後半の遺物包含層下の基盤面で遺構を検出した。主な遺構として、古墳時代前期の竪穴建物と考えられる浅い落ち込み 3 基、平行して走る幅 30 ～ 40cm の溝群が検出された。竪穴建物からは少量の土師器が検出されたが、溝からは遺物は出土しなかった。切り合い関係から溝群は集落に先行する時期になる。また、13B 区の旧河道埋土下層より、古墳時代前期の土師器、木製品、自然木が出土した。

ま　と　め　今年度の調査区は、遺跡の北西部に相当する。調査の結果、これまでの調査で検出されていた古墳時代前半以前の旧河道の延長部分が確認され、同様の遺物が出土した。また、同時期の集落が展開し、先行する時期の溝群との関係が確認された。今後は今回の調査区より北の部分の調査を通じて、遺跡の広がりと寄島遺跡との関連性を検討することが課題となる。

（酒井俊彦）

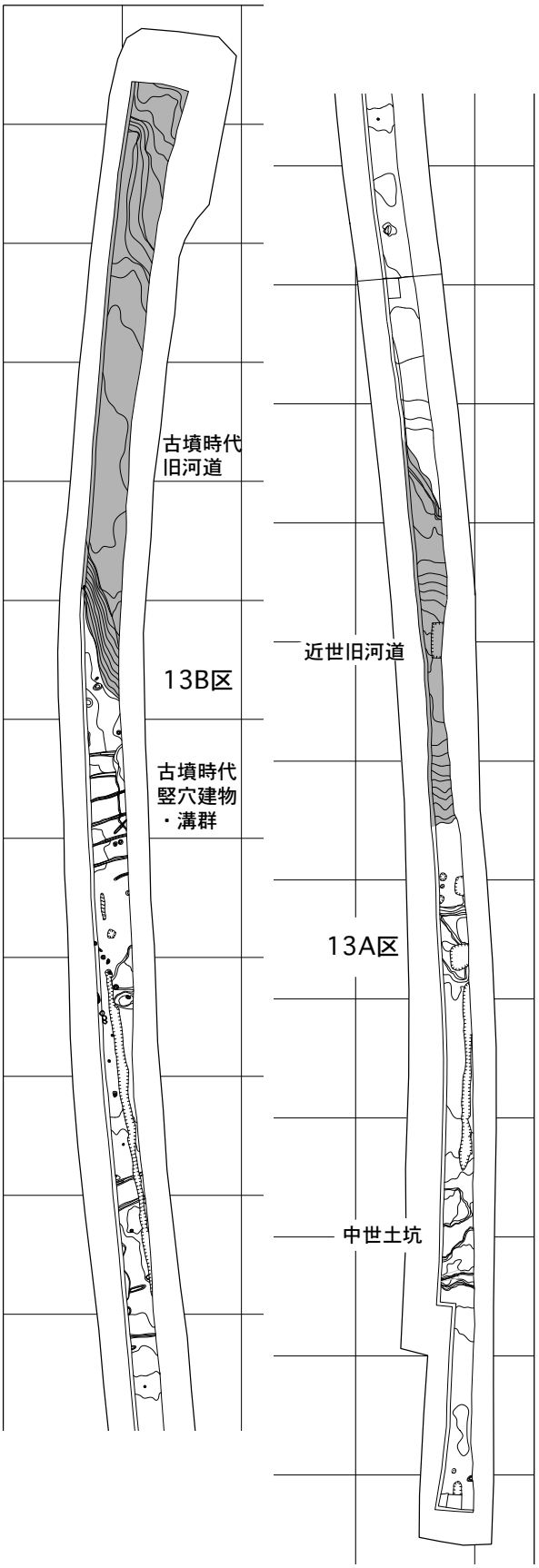
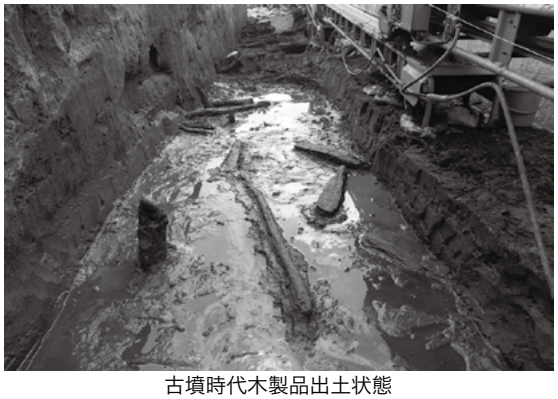


図１　遺構全体図（1:600）



A 区全景（北より）



古墳時代木製品出土状態



古墳時代竪穴住居・溝群



中世土坑

下懸（しもかけ）遺跡

所　在　地　安城市小川町向田
(北緯34度54分20秒 東経137度5分43秒)

調 査 理 由　中小河川改良事業（鹿乗川）

調 査 期 間　平成26年１月～平成26年３月

調 査 面 積　540㎡

担　当　者　宮腰健司



調査地点（1/2.5万「西尾」）

調査の経過　調査は鹿乗川改修工事に伴う事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会の委託を受けて平成26年1月～平成26年3月にかけて実施した。調査区は鹿乗川に沿って、東西約7m、南北約77mに設定され、水路によって南北に分断される。調査区の呼称は本年度行われた床上浸水対策特別緊急事業（鹿乗川）に伴う調査と区別するため、13C区とした。

立地と環境　下懸遺跡は鹿乗川左岸の標高約7mの沖積地に立地する。発掘調査は平成12年度と21年度に行われており、弥生時代中期の河道や土器棺、弥生時代後期～古墳時代前期にかけての集落や、古墳時代～中世の旧河道が検出され、赤彩された木製甲や習書・文書木簡などが出土している。

調査の概要　調査は古代～中世の遺物を含む暗褐色シルト層、弥生時代～古墳時代初期の遺物を含む黒褐色シルトを除去した後、明灰色シルト上面で遺構検出を行った。

調査区南半部については、古代以降の耕作の影響と考えられる地層の激しい撹拌のため、明灰色シルト面まで上層の土がブロック状に入り込んでおり、遺構の検出が困難であった。また遺物も大部分が小片となっていた。そのため撹拌土を除去した面を第2面として遺構の検出を行った。北半部では撹拌の影響は少ないが、竪穴建物など遺構の重複がみられた。

その結果、調査区北半部の水路より南では、古墳時代初期の竪穴建物８軒をはじめ北東から南西にかけて走る溝群や土坑が検出された。特に001SXは幅の広い周溝をもつ竪穴建物であることが判明した。また、当初多くの古墳時代初期の遺物が出土した大型土坑068SKは021SIに伴うと考えたが、別遺構である可能性もあり、021SIは長方形ではなく、正方形に近い形状となることも考えられる。

水路より北側で竪穴建物は検出されず、土坑や北に向かってゆるやかに下がっていく落ち込み、炭化物・焼土の広がりを検出した。

（宮腰健司）


明灰色シルト面（第１面）検出状況


第１面全景（南から）



北部落ち込みと炭化物・焼土検出状態



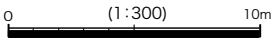
北部竪穴建物群

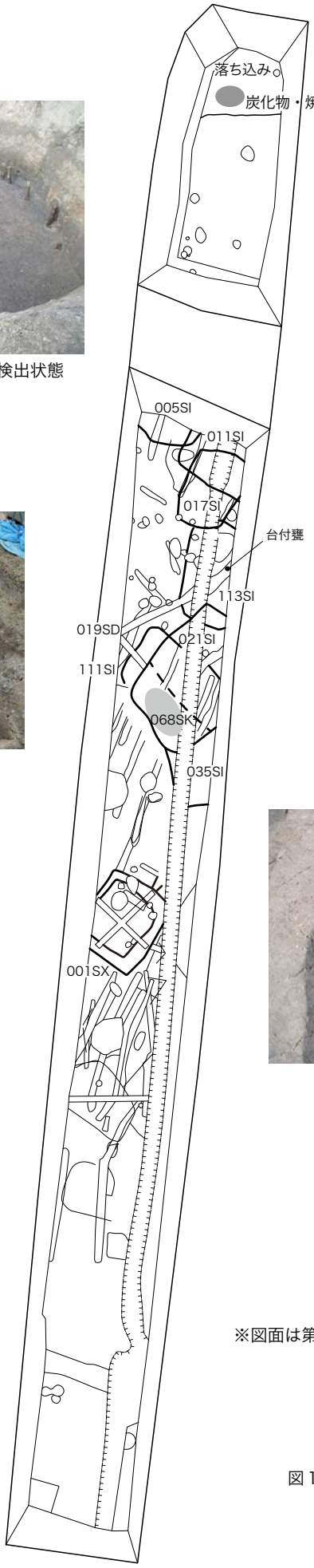


019SD 台付甕出土状態



068SK 土器出土状態



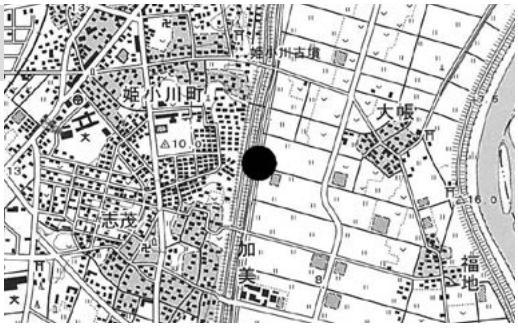


※図面は第１面と第２面を結合している。

図１　下懸遺跡 13C 区全体図

寄島（よせじま）遺跡

所　在　地　安城市小川町
（北緯34度54分34秒 東経137度5分45秒）
調 査 理 由　中小河川改良事業（鹿乗川）
調 査 期 間　平成25年11月～平成26年3月
調 査 面 積　2,110 ㎡
担　当　者　酒井俊彦



調査地点（1/2.5万「西尾」）

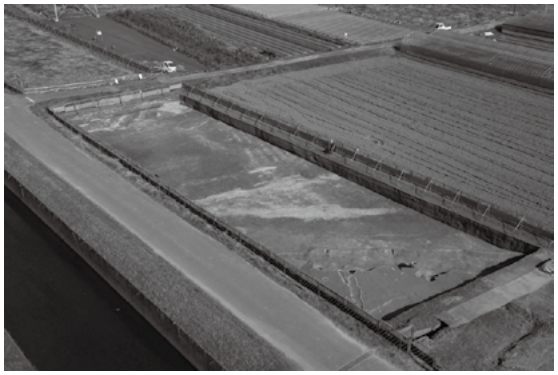
調査の経過　調査は中小河川改良事業（鹿乗川）に伴い、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて当センターが委託を受けて実施したものである。本遺跡は平成19年度から調査を開始し、今年度で4回目、総調査総面積は10710㎡である。今年度は、昨年度調査区の北側の２区画の調査を行った。

立地と環境　本遺跡は矢作川下流域、鹿乗川左岸の沖積地に立地する。右岸の碧海台地上には姫小川古墳などの古墳群が展開し、平成12年より本センターが調査を行っている鹿乗川左岸には、北から南にかけて姫下、寄島、下懸、五反田、惣作の5遺跡が連続して所在する。現在の鹿乗川は碧海台地東辺を直線的に南流し、川の西側の遺跡周辺は平坦な沖積地である。旧鹿乗川は矢作川沖積地を蛇行して走り、下懸遺跡、惣作遺跡、姫下遺跡で東西方向の旧河道が確認されている。遺跡はこの旧河川の自然堤防上に展開する。標高は7～7.5mである。昨年度までの調査で古墳時代の集落、墓域が検出されている。

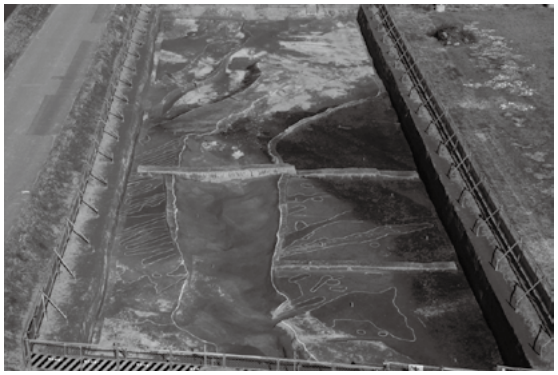
調査の概要　これまで遺跡の南から順次調査を行い、遺跡の主体となる古墳時代前期の集落が北にどのように展開するかが今回の調査の課題であった。13A区から13B区にかけて北西から南東に走る近世以前の旧河道が検出され、古墳時代の集落が展開する沖積微高地が連続しないことが確認された。13A区の南端が河道の南岸に相当し、13B区の南部で北岸が検出され、河道の幅は約60mを測る。また、13B区南東部に北東方向から南に走る古墳時代前期以前の旧河道の一部が検出された。13B区が西岸に当たり、東岸は調査区外であるため川幅は不明である。また、13B区の北西部は河川性の堆積物が基盤面になるが、堆積時期や流れる方向は確定出来ない。上面の遺構として13A区では微高地端部に河道に平行する中世溝1条が検出された。13B区では古墳時代前期の河道に沿う微高地端部に最大幅約7mの溝と微高地上で南北に走る溝2条を検出した。下面では古墳時代前期の遺構と遺物包含層が検出された。主な遺構として13A区で竪穴建物1棟と溝が確認された。13B区では旧河道の包含層が確認され、古墳時代前期の土師器と木製品・自然木が少量出土した。また、旧河道斜面上部から微高地上で土坑、溝群と井戸1基が検出された。

ま　と　め　今年度の調査で、本遺跡の北限が確認された。しかし、古墳時代前期の遺構群の展開としては、旧河道がこの時期以降に微高地を削って流れた可能性がある。本来、微高地が存在して、この時期の集落が連続して北に広がっていたことが推測される。今後は旧河道の変遷を地質調査の成果から類推し、この時期の集落の展開を検討する必要がある。

（酒井俊彦）



13A区全景（南西より）



13B区全景（南より）



13B区南半（西より）



13A区中世溝（南東より）

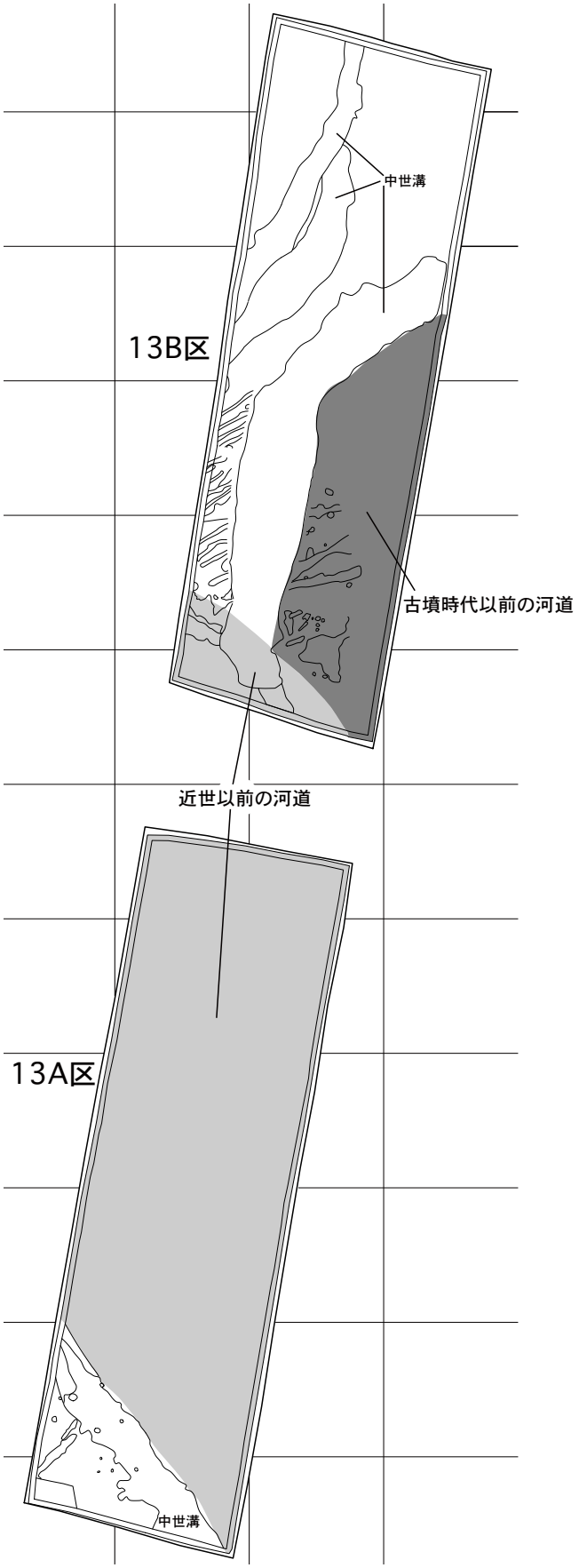


図1　遺構全体図（1:500）

宮下（みやした）遺跡

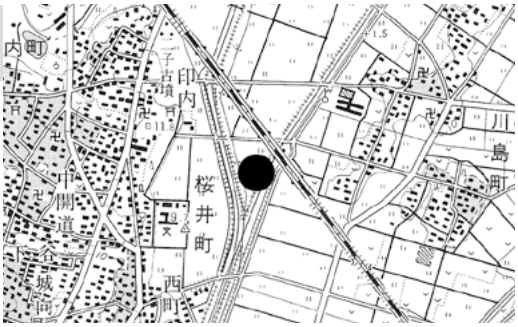
所　在　地　安城市桜井町小社
（北緯34度55分30秒 東経137度6分1秒）

調 査 理 由　中小河川改良工事（鹿乗川）

調 査 期 間　平成25年12月～平成26年１月

調 査 面 積　200㎡

担　当　者　宮腰健司



調査地点（1/2.5万「安城・西尾」）

調査の経過　調査は鹿乗川改修工事に伴う事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会の委託を受けて平成25年12月～平成26年１月にかけて実施した。当該遺跡は、平成23年９月に本センターによって80㎡の面積が調査されており、この平成23年度調査区の東側を中心に、南北に隣接して今回の調査区が設けられた。また西約300mでは安城市教育委員会による調査が行われている。

立地と環境　遺跡は鹿乗川と西鹿乗川が合流する地点の、標高約８mの沖積地上に立地する。周辺には碧海台地縁辺に沿って古井遺跡群や桜林遺跡・中狭間遺跡・亀塚遺跡が並び、二子古墳や比蘇山古墳などの古墳が造られている。

調査の概要　調査は平成23年度調査区の東側にあたる地区を13A区、北・南側の地区をそれぞれ13B区・13C区として分割して行った。既調査の成果を基に、重機によって遺物が含まれる暗黄色シルト質粘土及び黒褐色粘土質シルト上面まで掘削したところ、南半部のみ包含層が広がることが確認できた。その後厚さ3～5cmの包含層を除去し、黄褐色粘土層上面で遺構検出を行った。また遺構の重複がみられる部分があったため、２面に分けて測図した。さらに東半部については、鹿乗川や堤防・水田造成による撹乱を受けており、包含層・遺構が遺存していないことが判明した。

13A区では、北側で検出された001・002・010SDについては、遺物は出土していないが、近世以降の耕作に伴う溝と思われる。中央やや南で併行して走る溝007・011・013・016SDは、下位の020SDの埋没途中の窪地に掘削されており、007・013SDでは須恵器片が出土している。020SDでは松河戸式期の土器がややまとまって出土している。

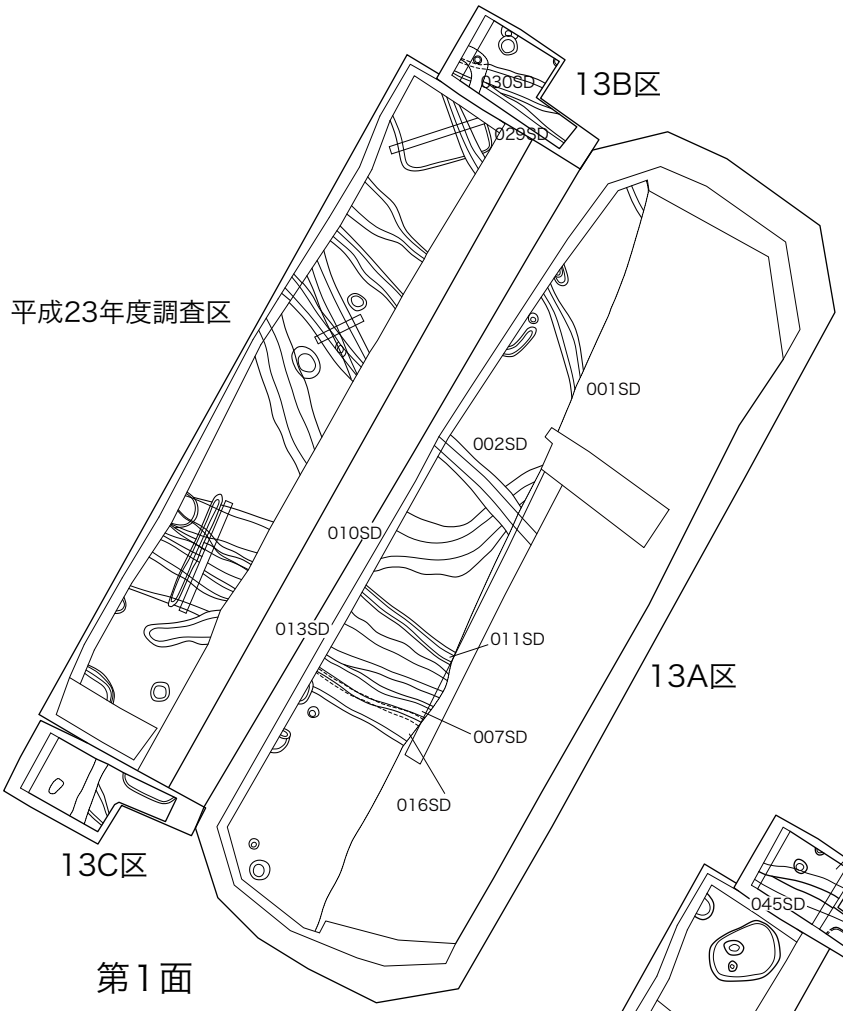
13B区では北西―南東方向に走る２条の溝029SDと030SDを検出した。さらに029SDの下位に重なるように045SDがあり小型壺が出土した。またその北側には溝または竪穴建物と思われる落ち込み044SXがある。13C区では土坑が検出されている。　（宮腰健司）



第２面全景　（南から）



045SD小型壺出土状態





第1面(南から)



020SD土器出土状態

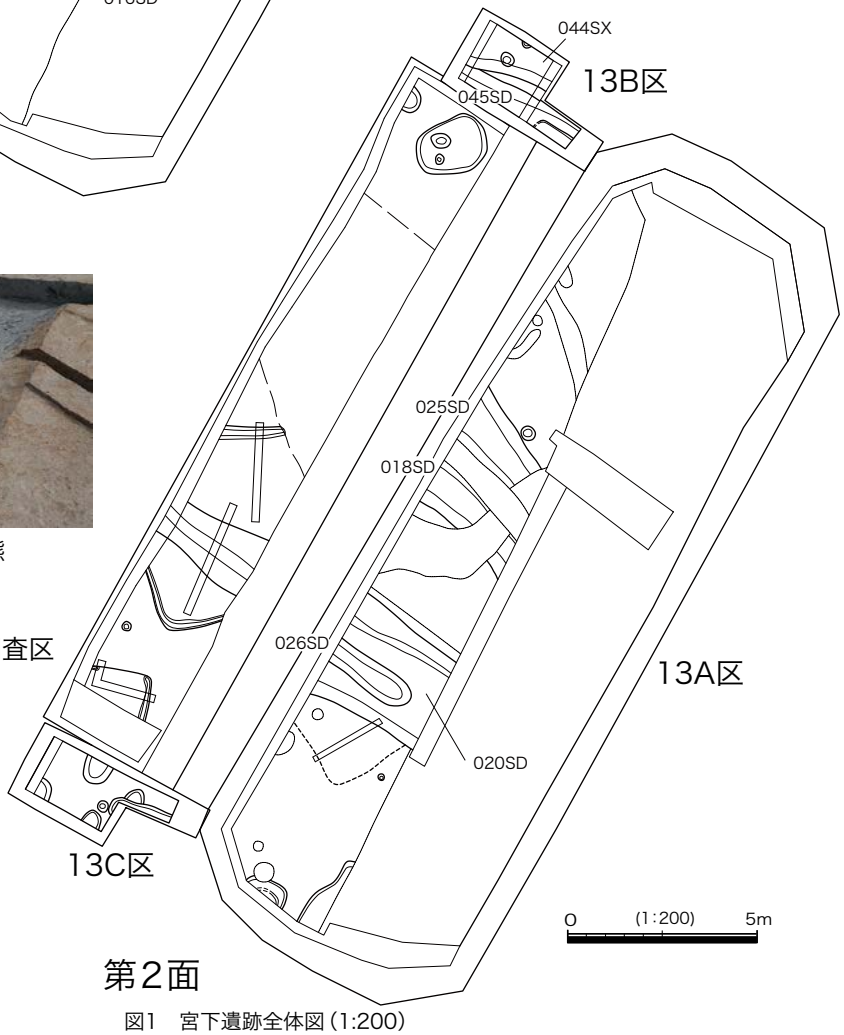


図1　宮下遺跡全体図(1:200)

八畝畑（やせばた）遺跡

所　在　地　岡崎市正名町吹野、八畝畑
（北緯34度53分28秒 東経137度7分51秒）

調 査 理 由　道路改良工事（交付金）（主）岡崎碧南線

調 査 期 間　平成23年５月～10月

調 査 面 積　3,500㎡

担　当　者　松田 訓



調査地点（1/2.5万「西尾・幸田」）

調査の経過　調査は、愛知県建設部による県道岡崎碧南線改良工事に伴う事前調査として、愛知県教育委員会より委託を受けて、平成25年５月から10月にかけて実施した。調査区は二分割し、13Ａ区・Ｂ区として実施した。調査面積は、3,500㎡である。

立地と環境　遺跡は岡崎市南西部に所在し、矢作川及びその支流によって形成された氾濫原の沖積地に立地する。調査地点の南側約1.5kmの位置には、古墳時代後期から終末期の円墳を主体とした羽角山古墳群が丘陵上に展開する。

調査の概要　今回の調査では、第１面において古代の竪穴建物、掘立柱建物、中世の井戸等が確認され、第２面においては弥生時代後期から古墳時代前期と思われる竪穴建物、土坑、遺物集積、自然流路等が確認された。

第１面では、調査地点全体で遺構、遺物が検出されており、この中で竪穴建物跡は南側にて６基の平面プランを検出した。いずれも後世の削平などにより基底部のみが残存しており、７～８世紀と思われる須恵器等がわずかに含まれていて、柱穴は明確ではなかった。北側にカマドと思われる焼土、袖の基底部が確認できるものも検出されたが、いずれも残存部は浅く、壁溝のみ残存し壁は消失しているものも見られた。井戸は調査区中央から南側にて６基検出され、このうち４基は曲げ物を井戸枠として利用している状況が確認できた。時期の判定できる遺物が出土しているものは少ないが、山茶碗が出土しているものが含まれた。これらの状況から、古代、中世にはこの地点にて集落が営まれていたことが想定される。またこの他にも、同じ面にて規則的な配列、方向が観察できる小穴のまとまりが見られ、掘立柱建物跡、柵列が想定された。

第２面では、調査地点の北側にて自然流路が蛇行している状況が確認でき、この河川に向かう落ち際では、古墳時代前期の土器が集中して出土する地点が確認された。この地点の土層は、北側に向かって低くなる斜面に細かく重なる状況が観察でき、洪水性の堆積が繰り返されたことが考えられる。遺物の周囲では、掘削された痕跡が確認できないことから、自然流路に向かって地形が落ち始める地点を選んで土器が廃棄されたものと考えられる。この遺物集中部では、遺存度の良好な壺、甕、高杯などが多く、短期間に集中して一定の場所に廃棄された要因が注目される。

ま　と　め　八畝畑遺跡に近接する周辺地域では、弥生時代から古墳時代、古代などに該当する明確な集落遺跡が確認されていない。先に触れた羽角山古墳群は６世紀中葉から７世紀後葉という時期が想定された古墳群であるが、これらの造営母体となった集落、集団も現時点では未解明である。八畝畑遺跡の調査で確認された居住域は、羽角山古墳群との関連性も含めて、どのように位置づけるべきなのかが重要と思われる。そのために、今後の調査資料の増加も視野に入れながら、調査成果の評価を行うことが必要であろう。　（松田 訓）



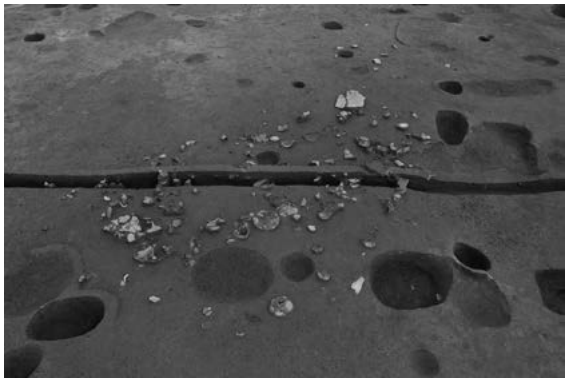
2100SE 断ち割り



291SB



2070・2080SI 完掘



3070SU 出土状況



13B 区遠景（北から）

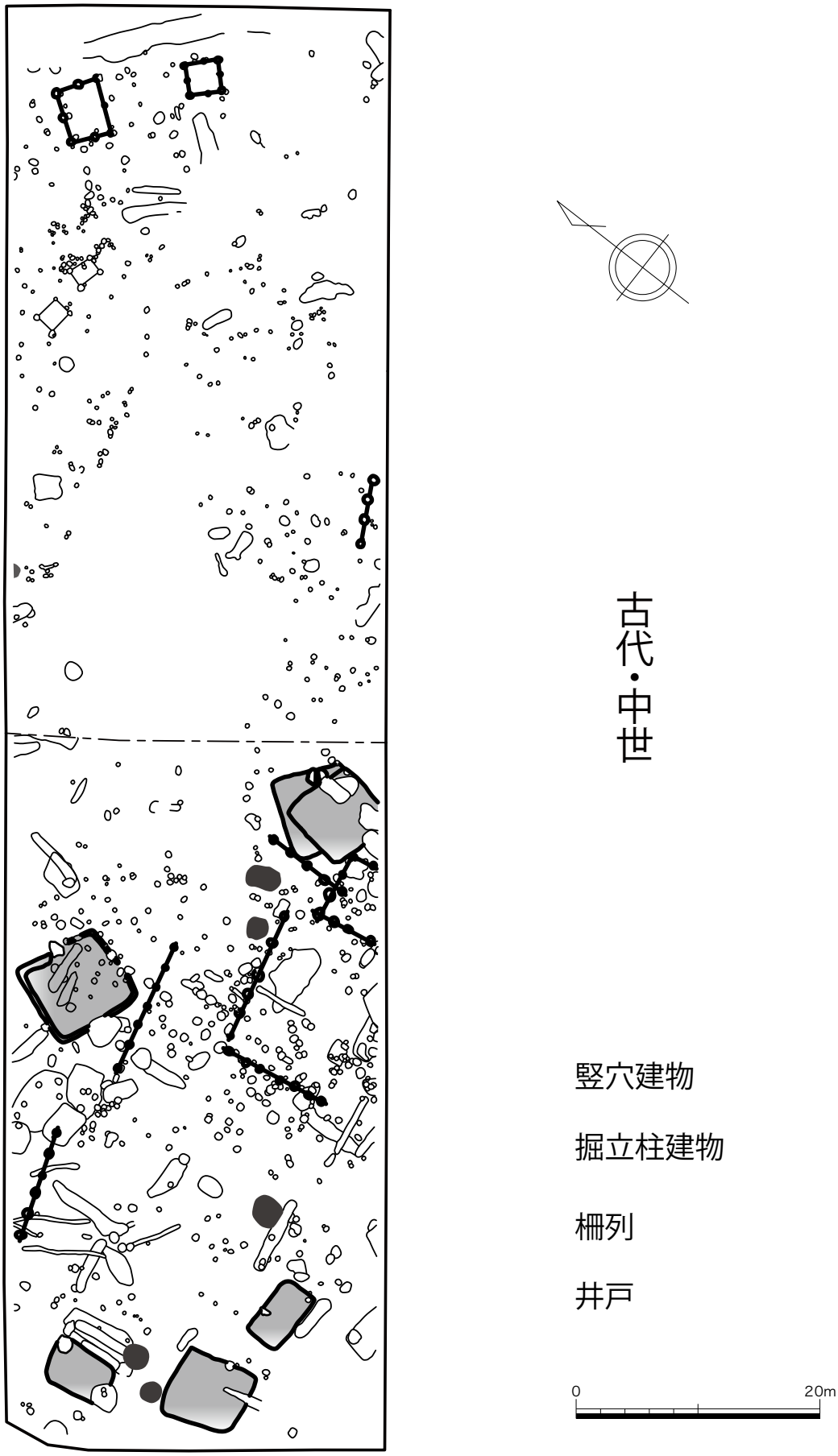


図１　調査区第１面遺構図（1:500）

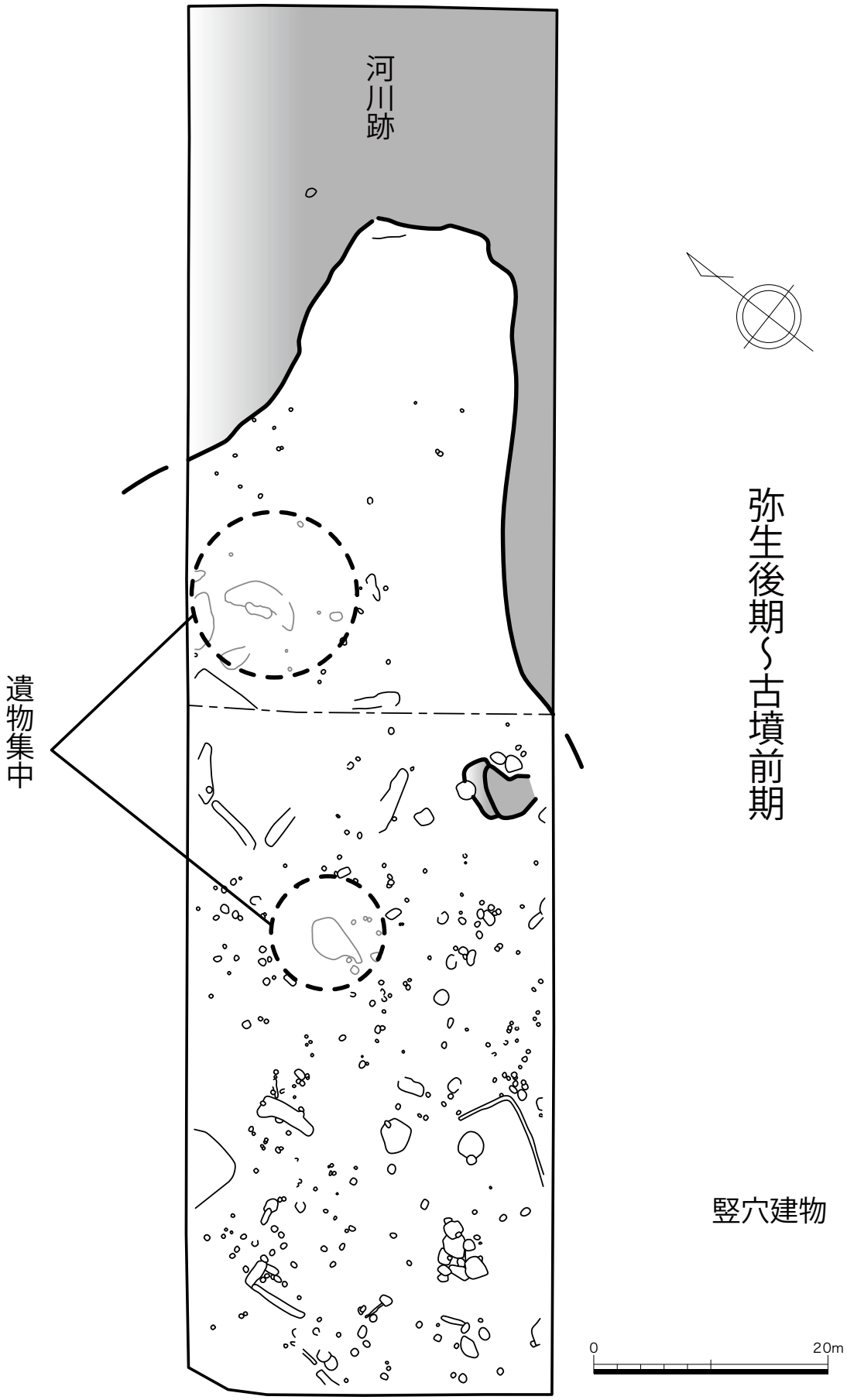


図２　調査区第２面遺構図（1:500）

孫石（まごいし）遺跡

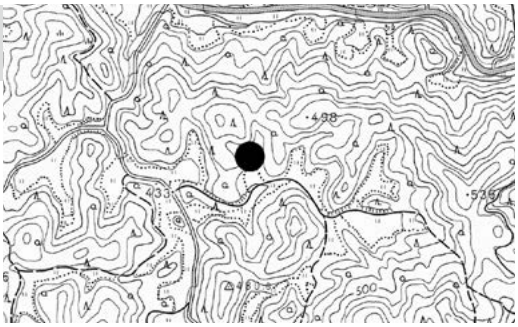
所　在　地　豊田市下山田代町孫石地内
（北緯35度1分30秒　東経137度19分27秒）

調 査 理 由　豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業

調 査 期 間　平成25年5月～平成25年11月

調 査 面 積　7,630㎡

担　当　者　鈴木正貴・小澤一弘



調査地点（1/2.5万「大沼」）

調査の経過　調査は愛知県企業庁による豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に伴う事前調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成25年5月から11月にかけて実施した。調査対象地の現況は旧水田耕作地と植林された山林であり、地形に応じて13Ａ区・13Ｂ区・13Ｃ区に分けて調査を行った。13Ｂ区の調査結果からその北側に遺構・遺物が拡がることが想定されたため、範囲確認調査（30㎡）を実施し、13Ｄ区を追加調査することとなった。本調査を実施した面積は合計で7,600㎡である。

立地と環境　孫石遺跡は郡界川の支流の一つである沖川の東岸丘陵部に所在し、沖川に合流する谷川の上流部にある緩斜面に位置する。谷を挟んで東に丸山Ａ遺跡、尾根を挟んで西に蔵平遺跡が存在しており、付近には平安時代を中心とした遺跡群が展開している。

遺跡が所在する緩斜面は北に伸びる谷部（13Ａ区）と西に伸びる谷部（13Ｂ・Ｄ区）に分かれ、この谷が合流して低湿地部（13Ｃ区）に至る。調査地点の標高は448～470mを測る。

調査の概要　調査の結果、縄文時代と平安時代および近代の遺構や遺物が確認されており、特に平安時代の遺構や遺物が多く認められた。現地表面では確認することができない小規模な谷地形もいくつか検出され、そこに黒褐色土が堆積していた。中でも、２つの谷地形の間の斜面（13Ｃ・Ｄ区）には埋没した谷地形が存在し、激しい湧水が確認された。黒褐色土は地山である花崗岩風化土の再堆積層を挟んで３層確認される場合もあるが、基本的に遺構は最上位の黒褐色土上面から構築されている。便宜上、黒褐色土の堆積が厚く灰釉陶器が多数出土する13Ｂ・Ｄ区で２面（黒褐色土上面と地山上面）、黒褐色土の堆積が薄いあるいは無い13Ａ・Ｃ区で１面（地山上面）の調査を行った。以下、時期ごとに遺構の概要を報告する。

縄 文 時 代　縄文時代の遺物としては、土器片や石器が散在してわずかに出土しているに過ぎない。遺構としては明確なものはなく、縄文時代と推定される陥穴は13Ａ区で１基（014SK）、13Ｂ区で４基（281SK・287SK・295SK・297SK）、13Ｄ区で２基（182SK・186SK）が確認された。陥穴は、緩斜面がやや急斜面に変わる変換部に構築される傾向があり、概ね隅丸方形または楕円形の平面プランを持ち、床面にピットを１～２個有する。ほとんどが黒褐色土を除去した状態で検出されたが、埋土の状態からみて本来は黒褐色土上面から設置されたものと思われる。

平 安 時 代　13Ｂ区と13Ｄ区を中心に掘立柱建物約６棟、竪穴状遺構約10基、炉跡３基の他に溝や土坑などの遺構が多数確認された。

掘立柱建物は柱間が１～２間の小規模なもので、308SBをはじめとする多くの建物は13Ｂ区の谷底緩斜面に所在する。一方、やや急な斜面には谷を挟んで対面するように１間×１間の掘立柱建物（13Ｂ区306SB・13Ｄ区194SB）が建つ。竪穴状遺構は斜面中に平坦面

を切り出す形で造られており、一辺が２～３mと小規模なものが多いが、長辺が５mを超えるもの（13Ｂ区194SIなど）もある。柱穴や壁溝等は存在せず、中央に炉跡と推定される焼土が確認される場合（13Ｄ区032SIなど）がある。谷底の緩斜面を囲むように排水用と思われる数条の溝（13Ｂ区207・211SDなど）が確認されたが、このうちのいくつかは平安時代まで遡る可能性がある。

13Ｂ区の谷頭部の緩斜面には浅くて平面規模が大きい土坑044SXが存在し、埋土から折戸53号窯式期前後に属する灰釉陶器類や土師器甕が多数出土した。また、鉄鏃１点と椀型鉄滓20点以上も出土しており、床面で炉跡１基と炭化材が散布している状態が確認された。13Ｂ区の谷開口部付近の平坦面では、炉跡が２基（178SL・179SL）確認され、焼土直上で椀型鉄滓が出土したことから、鍛冶炉であった可能性が考えられる。

掘立柱建物と竪穴状遺構はともに規模が小さく居住には適さないものと思われることから、作業場のような機能を果たしていたと推定される。鍛冶炉と思われる遺構の存在は、作業の内容を考える上で重要な資料となるだろう。鉄滓などの散漫な出土状況からみて、本格的な金属製品生産の場というよりは金属製品を多用する作業場であったと想定したい。

近　　代　近代では炭焼窯や溝などが検出された。炭焼窯は外縁部に焼土が確認される浅い土坑のタイプと焚口と煙道を持つタイプが存在する。13Ａ区001SYは焚口と煙道を持ち、壁面の一部に石を貼付けたもので窯体内には天井壁が崩落していた。13Ｂ区278SYは石敷の床面を持つもので煙道部も石材で造り付けられていた。278SYに近接して13Ｂ区279SYがあり、同様の形状を呈すると思われるが、床面には石敷を持たないものである。

ま　と　め　今回の調査では、大きく３時期の遺構群が確認されたが、いずれも山の生業に関わる遺構･遺物群であり、居住域とは考えにくい状況であった。今後は近在する遺跡群と比較して、生業全体の様相を把握することにより、その中で孫石遺跡が果たした役割を明らかにしていく必要があるだろう。（鈴木正貴・小澤一弘）



孫石遺跡 調査区遠景　（南東から）



13B区207SD・211SD（南から）



13D区遺物出土状態（南から）



13C区谷頭部遺物出土状態（南から）

図１　第２面遺構全体図（1:800）

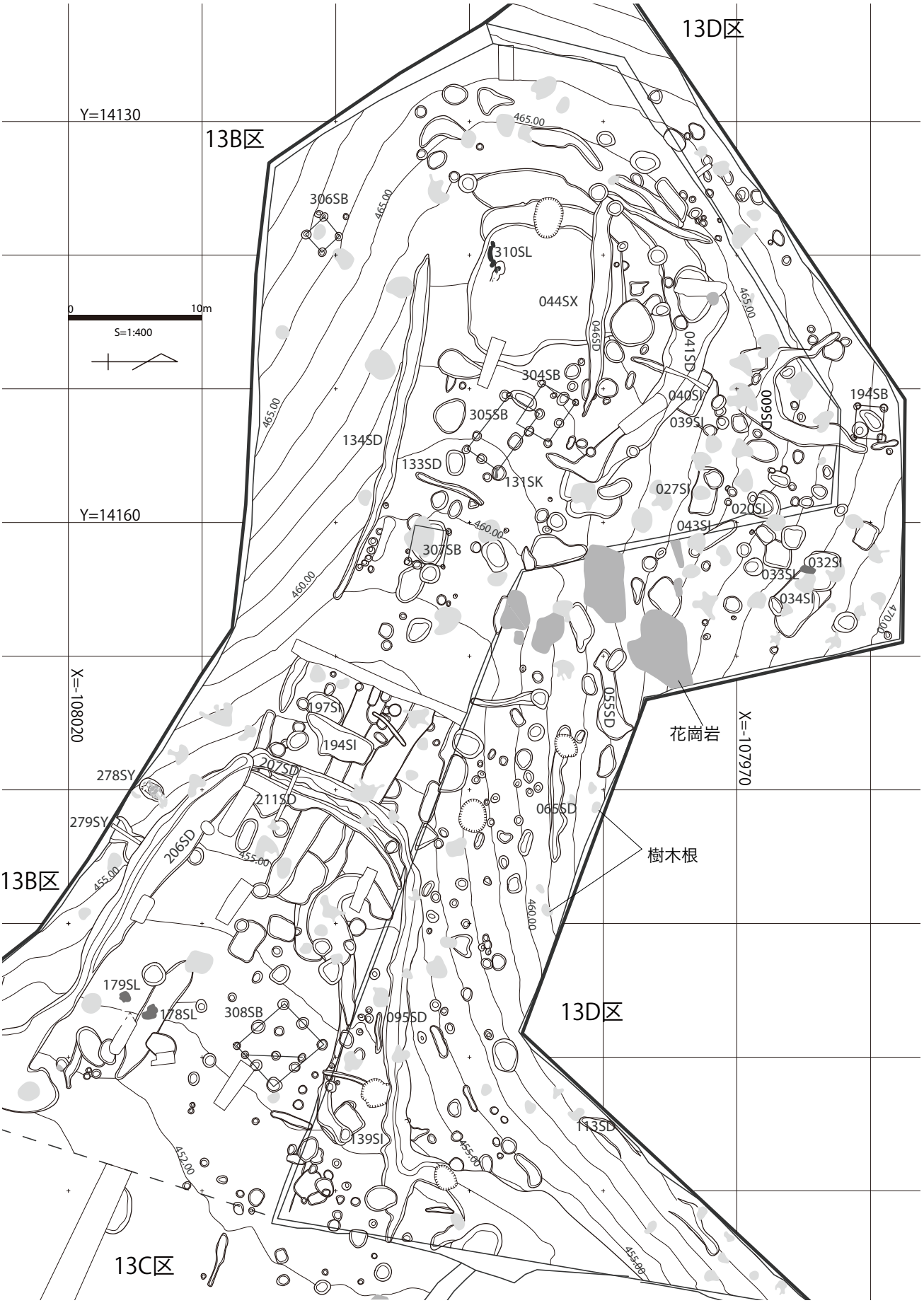
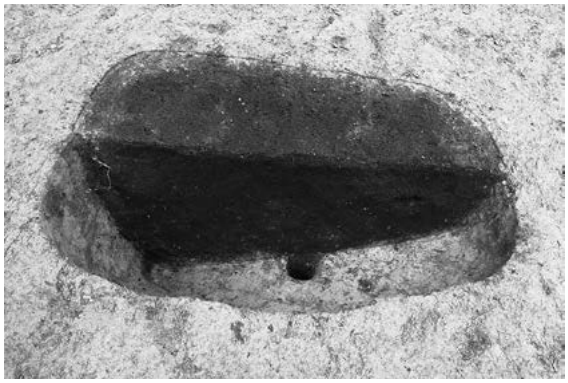


図２　13B 区・13D 区第１面主要遺構配置図（1:400）



13B区281SK土層断面（南から）



13D区斜面と谷頭（南東から）



13A区014SK（東から）



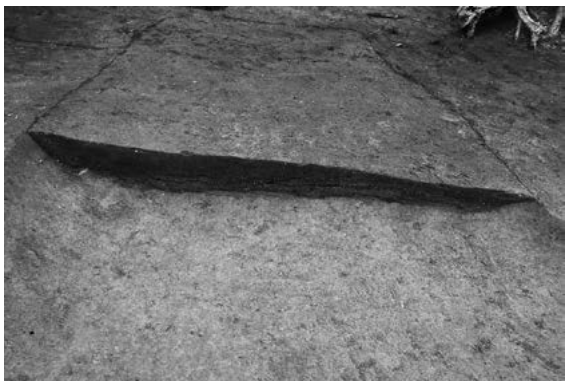
13C区谷地形（北西から）



13B区308SB（南西から）



13B区178SL・179SL土層断面（南西から）



13B区194SI土層断面（南から）



13D区032SI土層断面（北から）



13Ｂ区044SX土層断面（南から）



13Ａ区北壁土層断面（南から）



13Ｂ区278SY窯体内（北西から）

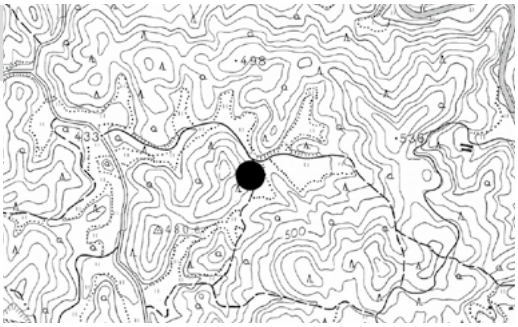


13Ａ区001SY窯体内（南東から）



13Ｂ区279SY（北から）

栗狭間（くりはざま）遺跡



調査地点（1/2.5万「大沼」）

所　在　地　豊田市下山田代町栗狭間
（北緯35度1分26秒 東経137度19分32秒）

調 査 理 由　豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業

調 査 期 間　平成25年4月～平成25年11月

調 査 面 積　3,170㎡

担　当　者　武部真木

調査の経過　調査は、愛知県企業庁による豊田・岡崎地区研究開発用地施設造成事業に伴う事前調査として、愛知県教育委員会より委託を受けて実施した。調査期間は平成25年4月から11月であり、本調査の13A区・13B区・13C区3調査区と範囲確認調査（70㎡）を合わせて計3,170㎡の面積について調査を行った。

立地と環境　遺跡は、豊田市下山田代地内にて郡界川に合流する沖川上流の右岸丘陵部に位置する。本年度調査地点の地形は、北向きに開口する谷部を中心とした範囲であり、昨年度調査の12B・12D区に挟まれた13A区と、12B区南側に接する13B区、さらに13A区南側崖上の13C区という位置関係にあり、隣接した範囲を調査することになった。標高では13C区が462～469m、13A・B区は約459mである。

調査の概要　13A・B区は、調査区ほぼすべてが南西部と南東部の谷を源とする自然流路と氾濫原に含まれる。東側丘陵の縁に沿って北流する13A区001NR埋土は、概ね上からA層；褐色粘

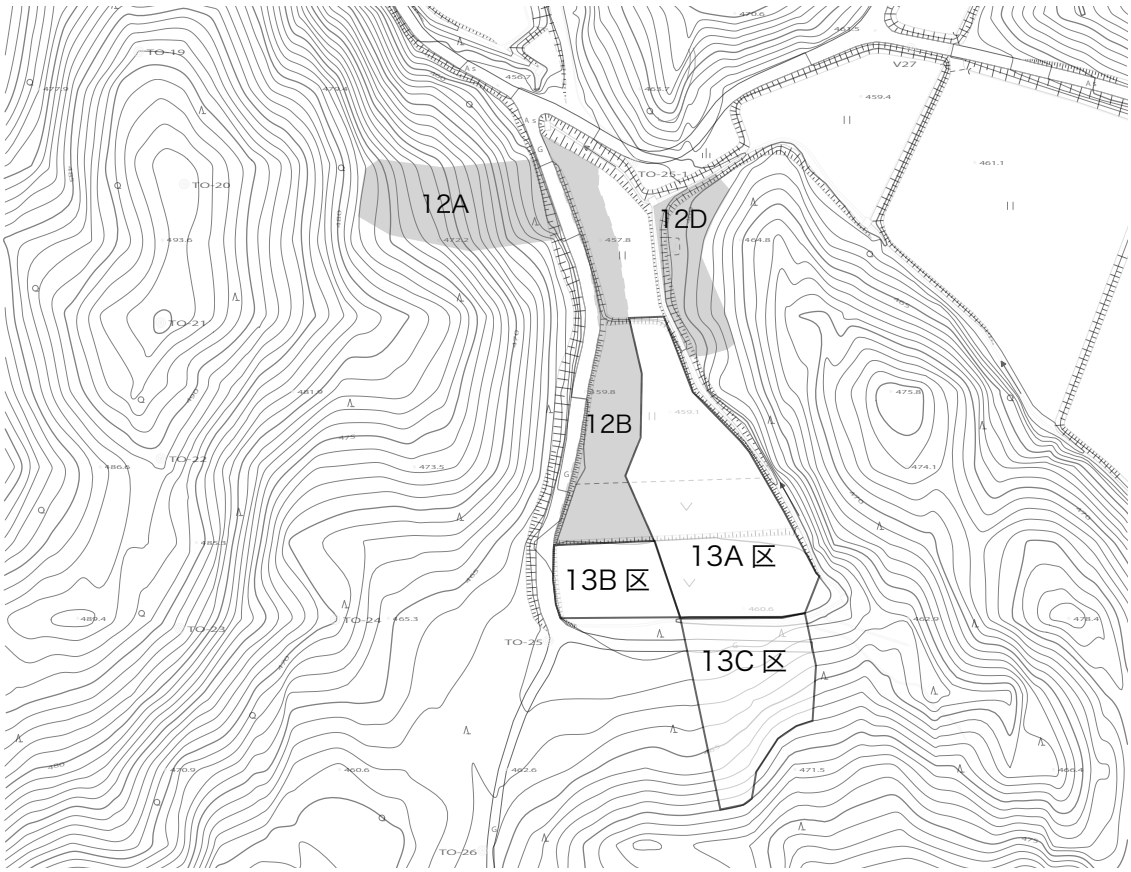


図1　調査区位置図（1:2,000）

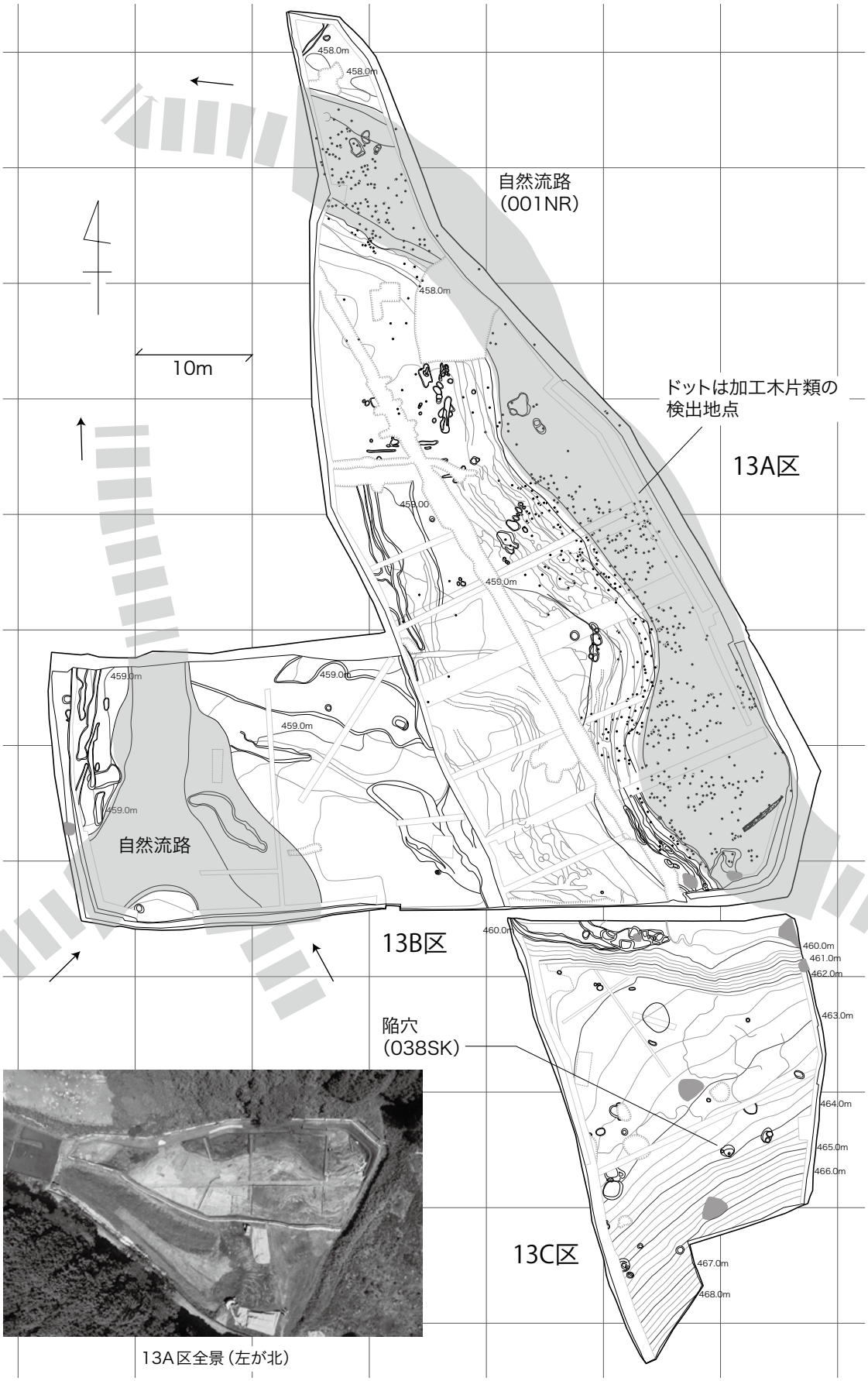
土質シルト、B層；黒色シルト～砂質シルト、C層；黒色粘土、D層；腐植物と粗粒砂の互層に大別でき、D層に含まれる灰釉陶器および植物遺体の分析（14C年代測定）により、少なくとも平安時代以降には主要な流路となり、中世の遺物を含むB層が堆積する頃に急激に埋積が進んだとみられる。注目すべき遺物として、流路の広い範囲のB層から山茶碗・小皿のほか加工痕のある木片類が大量に出土している。これらはスギ・ヒノキなど針葉樹を材に用い、形状は端部に切り欠きのある木簡状を呈するもの、一辺が10～15cm程度で中央付近に一つの穿孔をもつ長方形の板片、あるいは長さ90cm前後の棒状のものなど一定の規格の存在が認められるものが含まれる。これら木片の用途は不明であるが、製材等の加工作業が行われていたことが明らかとなり、隣接する谷地形を中心に範囲確認調査を行った。その結果、作業場所の特定には至らなかったが、トレンチの一つで加工木片を採取したことにより、さらに上流域で活動が行われていたことが判明した。

13C区の地形は丘陵端部付近の緩斜面であり、調査区北端は001NRなど河道や人為的に削られた崖面をなしている。基本層序は、上から表土（腐植土）、しまりの弱い黄灰色シルト層、黒色土層の順に堆積がみられ、風化花崗岩の基盤層に達する。13A区南東端で縄文晩期（樫王式）の土器がまとまって出土したことから崖上に活動域が予想されたが、明確な遺構は確認されず、黒色土層直上で土器の分布範囲を検出した。また基盤層に近いところで検出した黒色土を埋土とする土坑（038SK,068SK）は、底面に直径10cm前後のピット1基をもつ楕円形土坑であり陥穴と考えられる。

ま と め　今回の調査では明確な遺構がほとんど認められなかったものの、自然流路から旧石器、縄文時代草創期・早期・前期・晩期、古代（9世紀後半）、中世、近世の遺物が出土した。集落遺跡と比較して遺構・遺物ともに希薄ではあるが、こうした成果は山間地の生業の実態を伝える資料として、評価の方法から再検討される必要があろう。（武部真木）



遺跡遠景（北から,写真中央奥から左手は鶴ヶ池遺跡）



13A区全景（左が北）

図2　栗狭間遺跡13A・B・C区主要遺構配置図（1:500）



13B･C区全景（北東から）



13C区038SK（北から）



スクレーパー（白色石材, 13A区出土）



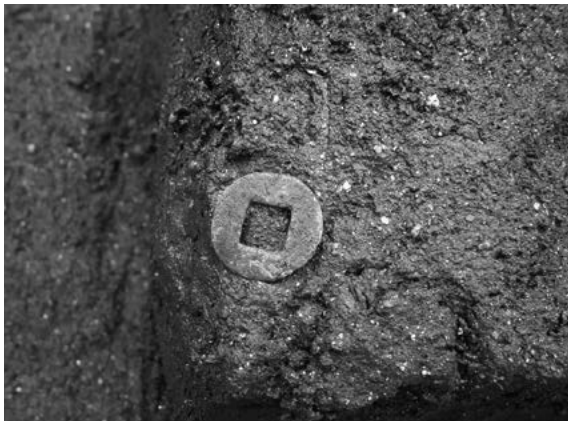
有舌尖頭器（下呂石, 13A区出土）



石製垂飾（蛇紋岩, 13A区出土）



木簡状の木製品（13A区001NR）



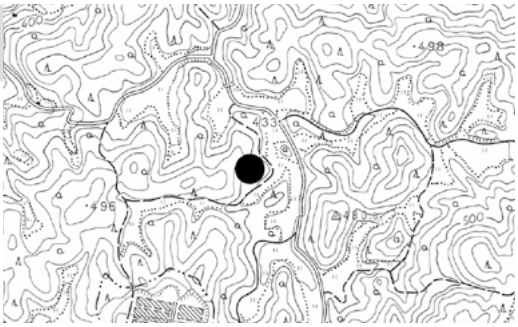
無文銭（13A区001NR）



加工木片類と中世陶器（13A区001NR）

トヨガ下（した）遺跡

所　在　地　豊田市下山田代町トヨガ下
（北緯35度15分7秒 東経137度14分46秒）
調 査 理 由　豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業
調 査 期 間　平成25年10月～平成25年12月
調 査 面 積　3,000㎡
担　当　者　鈴木正貴・武部真木・小澤一弘



調査地点（1/2.5万「東大沼」）

調査の経過　調査は、愛知県企業庁による豊田・岡崎地区研究開発用地施設造成事業に伴う事前調査として、愛知県教育委員会より委託を受けて実施した。調査期間は平成25年10月から12月であり、13A区・13B区の２つの調査区について、計3,000㎡の面積の調査を行った。

立地と環境　遺跡は、豊田市下山田代地内にて郡界川に合流する沖川の左岸丘陵部に位置している。13A区は昨年度調査の12B区西に隣接する南向きの緩斜面であり、標高は約437～440mを測る。13B区は谷を挟んで13A区の対岸にあたる標高444～450mの丘陵上である。

調査の概要　13A区では縄文土器包含層と古代の遺物を含む旧流路（013NR）を確認した。

基本層序は、上から表土（腐植土）、しまりの弱い黄灰色砂質シルト層、黒色砂質土～シルト層の順の堆積がみられ、風化花崗岩の基盤層に達する。縄文土器は浅い谷状地形を埋めるように堆積する黒色土層の上位に含まれており、自然地形の凹みと思われる054SKと周辺の斜面に前期・後期の土器小片が散漫に分布するといった状況であった。自然流路（013NR）は、昨年度に左岸域（12B区007NR）を調査し、今回は右岸と流路の大部分を調

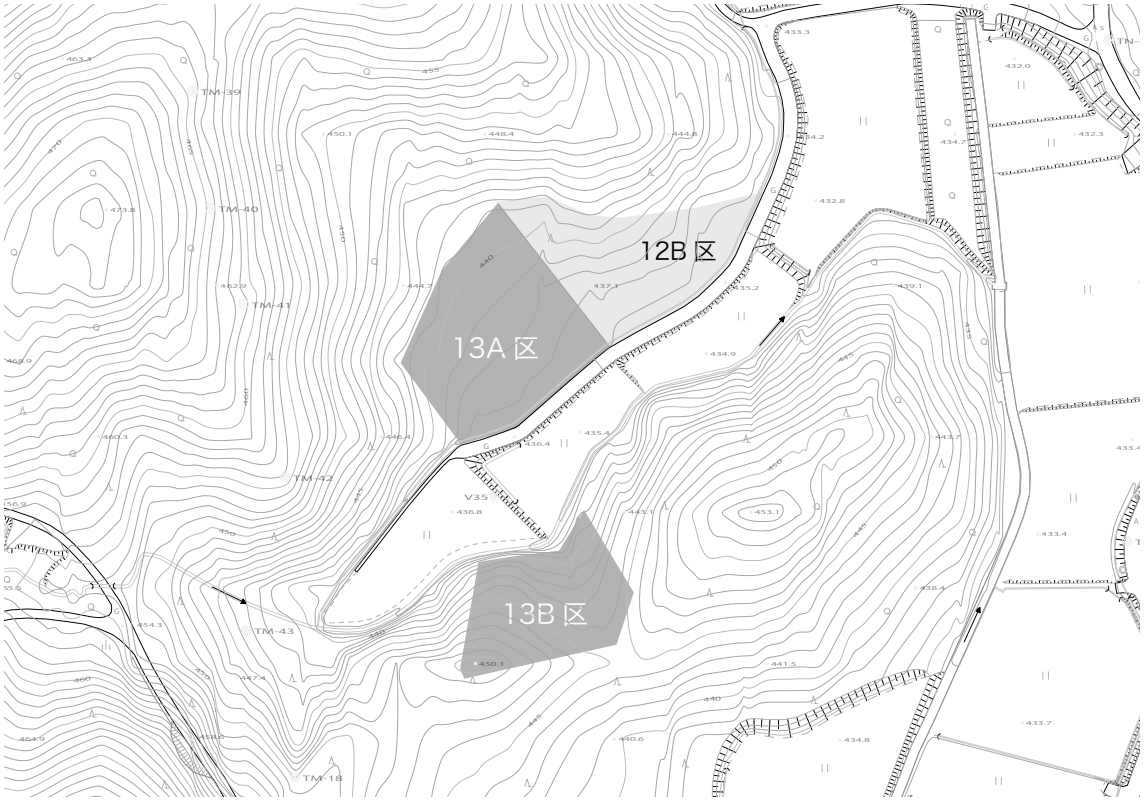


図１　トヨガ下遺跡 調査区位置図（1:2,000）

査した。出土した灰釉陶器には碗・皿、小瓶類があり、埋土の上層と下層で黒笹90号窯式から折戸53号窯式期に比定されるものがみられ、上流から流れ込み再堆積した状況がうかがわれる。灰釉陶器碗では2点の墨書が含まれるほか、土師器甕と数点の木製品（板状）が出土している。

13B区の主な遺構は、調査区西寄りの尾根上平坦面でピット状の土坑（015SK）ほか土坑数基がある。遺物をともなわず時期は不明であるが、調査区東寄りの尾根付近で検出された陥穴（030SK）は、検出面で1.2×0.9m、深さ0.83mの規模をもち、ほぼ平坦な底面の中央に直径約15cm、深さ約0.3mのピット1基が認められた。遺物では調査区西寄りの尾根上を中心に、少量ながらも縄文土器と磨石（1点）が出土している。

そのほか近代以降の炭焼窯（炭焼跡を含む）と思われる遺構は、両調査区で計11基を検出した。このうち13A区010SYは、花崗岩の岩盤の一部を削り込み、その内側に造られている。焼成室内側で長軸方向1.3m、幅0.8m、側壁の残存高1.1mの規模をもち、煙道部と側壁は石積み、底面は二重の石敷の構造となっている。出入口前方の作業スペースと思われる辺りには焼土と炭化物の混じる土坑が確認された。

ま と め

13A区付近では縄文時代前期・後期の土器が見つかり、13B区は陥穴が作られる環境にあったことが確認できた。具体的な居住域の推定に結びつく情報は少なく、下山地区の縄文時代の様相を考えるには、現状の遺跡（調査）範囲の括りよりも広い範囲を対象とした地形復元との検討から進められる必要があろう。

古代については、昨年度検出された土器と焼土を含む土坑等の遺構が今回は検出されていない。同様の緩斜面地形であったにも拘らず、谷奥側の流路の対岸域では活動の痕跡が希薄であった。ただ遺物の出土状況からは、さらに上流部にかけての範囲が中心的な活動域であったと推定される。（武部真木）



トヨガ下遺跡遠景（東から）

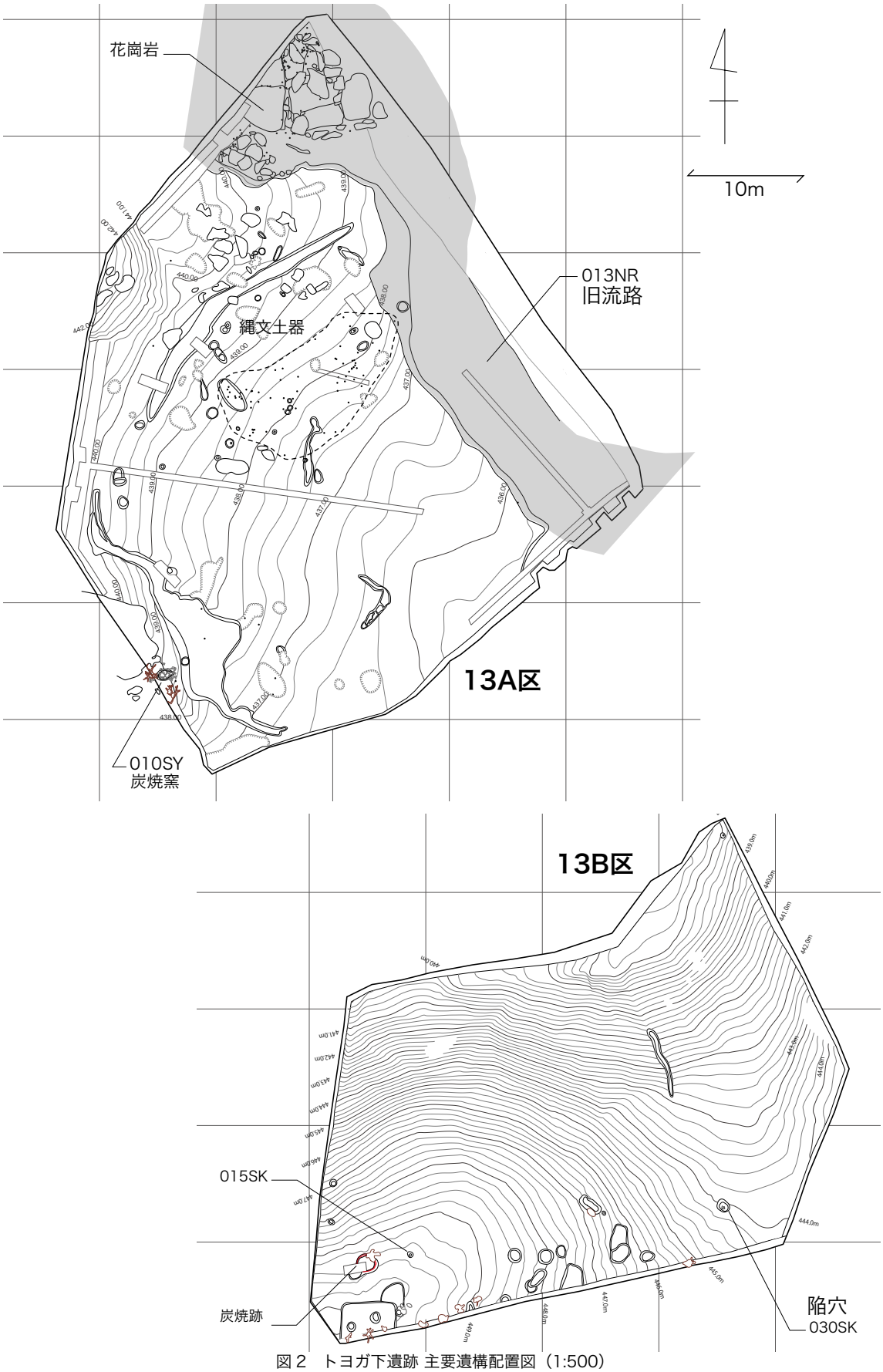


図２　トヨガ下遺跡 主要遺構配置図（1:500）



13B区全景（西から）



13B区030SK（北から）



13B区 西部完掘状況（西から）



13B区030SK断割り（北から）



13A区全景（南から）



13A区013NR遺物出土状況（南から）



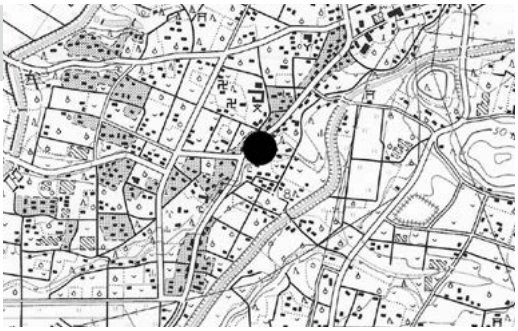
13A区縄文土器出土状況



13A区013NR出土の墨書灰釉陶器碗

野添（のぞえ）遺跡

所　在　地　豊橋市石巻本町西下地
（北緯34度47分55秒 東経137度26分15秒）
調 査 理 由　道路改良工事（主）東三河環状線
調 査 期 間　平成25年11月～平成26年3月
調 査 面 積　2,000㎡
担　当　者　松田 訓



調査地点（1/2.5万「豊橋」）

調査の経過　調査は、愛知県建設部による主要地方道東三河環状線改良工事に伴う事前調査として、愛知県教育委員会より委託を受けて、平成25年11月から平成26年３月にかけて実施した。調査区は三分割し、13Ａ区・13Ｂ区・13C区として実施した。調査面積は、2,000㎡である。

立地と環境　遺跡は豊橋市北部に所在し、豊川左岸の河岸段丘上に立地する。調査区は河岸段丘上の縁辺部に位置し、南側及び東側は神田川沿いの低地へと落ちる段丘崖となっている。調査地点の南東側約200mの位置には、神田川沿いの低地に弥生時代中～後期、中世を主体とした東下地遺跡が展開する。

調査の概要　今回の調査では、古代の土坑、竪穴建物、中世の溝等が確認された。この中で竪穴建物の可能性が考えられる遺構は、８基以上検出された。平面形態は楕円形を呈する１基を除いて隅丸方形を呈し、規模は一辺３～４mであった。主軸は方位から極端に偏向しないものが多く、３基は北側の辺がわずかに突出し、カマドの袖が基底部のみ観察されたり焼土がわずかに認められた。いずれも検出された深さは浅く、灰釉陶器椀、土器甕などがわずかに出土している。こうした竪穴建物跡の検出状況から、平安時代には段丘上の縁辺部において、集落が存在したことが想定される。

ま　と　め　調査地点の北側から中央東側にかけては、直線的な溝が検出された。断面形状は逆台形を呈しており、平面で確認できる主軸は、およそN-22°-Eを示す。検出面における規模は、長さ約45m、幅2.5～３m、深さ1.2～1.5mを測る。出土遺物はわずかであったが、基底部にあたる位置からは、無高台の山茶碗が出土している。約20m西側には、旧別所街道がこの溝と並行して通っており、溝を設ける目的、台地縁辺部での土地利用の仕方など、街道との位置関係も考慮しながらが評価することが課題である。

（松田 訓）



調査区遠景（南より）



13A区1050SI

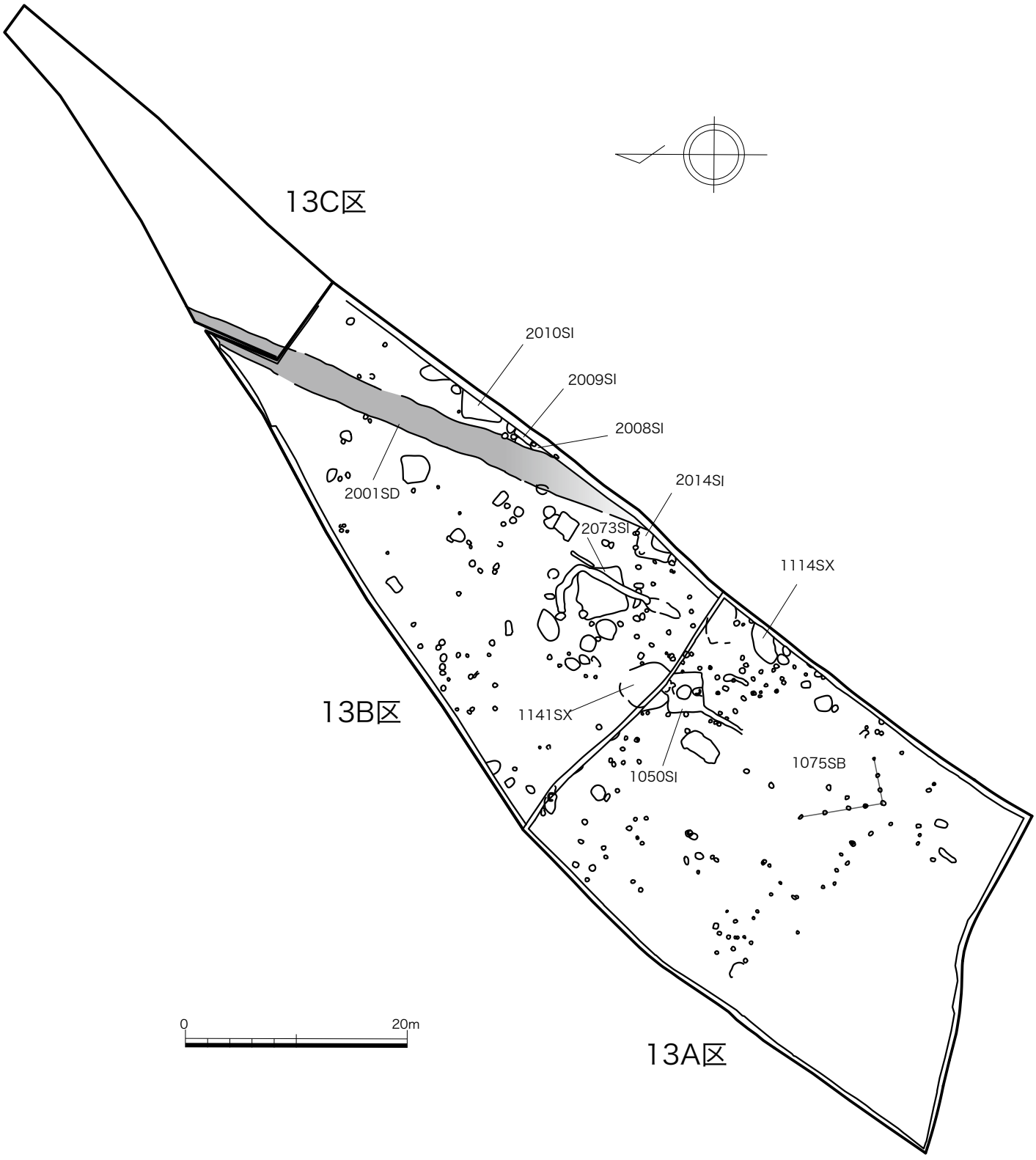
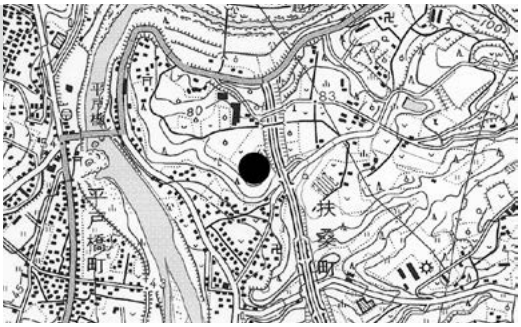


図１　野添遺跡 主要遺構配置図（1:500）

西平地（にしひらち）遺跡（範囲確認調査）

所　在　地　豊田市勘八町西平地
（北緯35度7分0秒 東経137度11分41秒）
調 査 理 由　一般国道153号豊田北バイパス
調 査 期 間　平成26年２月
調 査 面 積　200㎡
担　当　者　鈴木正貴



調査地点（1/2.5万「豊田北西」）

調査の経過　調査は国土交通省による一般国道153号豊田北バイパス建設に伴う事前調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成26年2月に実施した。調査対象地は丘陵頂部にあり、現況は耕作地と竹林である。県教育委員会の有無確認調査の結果を受け、1m×2mから1.5m×40mまでの規模のテストトレンチを合計25ヶ所設定した。

立地と環境　西平地遺跡は矢作川左岸の河岸段丘面に所在し、標高は75m～80mを測る。有無確認調査で中世の中国産青磁片が発見された遺跡であり、付近には馬場瀬古墳群が所在する。

調査の概要　調査は、中世を中心とした遺跡範囲の広がりと、馬場瀬古墳群に関連した遺構の有無、および旧石器時代の遺跡の有無などを視野に入れて実施した。調査の結果、全てのテストトレンチで層厚10～30cmの表土を除去した直下から、黄褐色シルトや中粒砂などで構成される地山が露出した。この地山を掘り込む土坑などがいくつか検出されたが、いずれも


TT-02 灰釉陶器出土状況（北西から）


TT-05 土層断面（南東から）


TT-01 掘削前状況（東から）


TT-02 検出された遺構？（西から）

江戸時代以降に属するものと推定された。

矢作川に面する西向き斜面の上端部には長さ20mのテストトレンチを２ヶ所設定したが、古墳および関連する遺構・遺物は確認されなかった。また、調査対象地中央を東西方向に長さ20m～40mのテストトレンチを３ヶ所設定し、深さ1m以上掘削したところ、20～50cm大の円礫を多く含む堆積など地山の堆積状況が確認されたが、そこから遺構・遺物を発見するには至らなかった。

ま と め

遺物は、TT-02から灰釉陶器片が1点確認された。また、江戸時代後期から近代にかけての陶磁器片が十数点出土した。

今回の調査では、中世に関わる情報を得ることができなかったが、平安時代の遺物を発見することができた。しかし、出土遺物は極めて少なく、集落遺跡などが存在したとは言いがたい状況である。

（鈴木正貴）

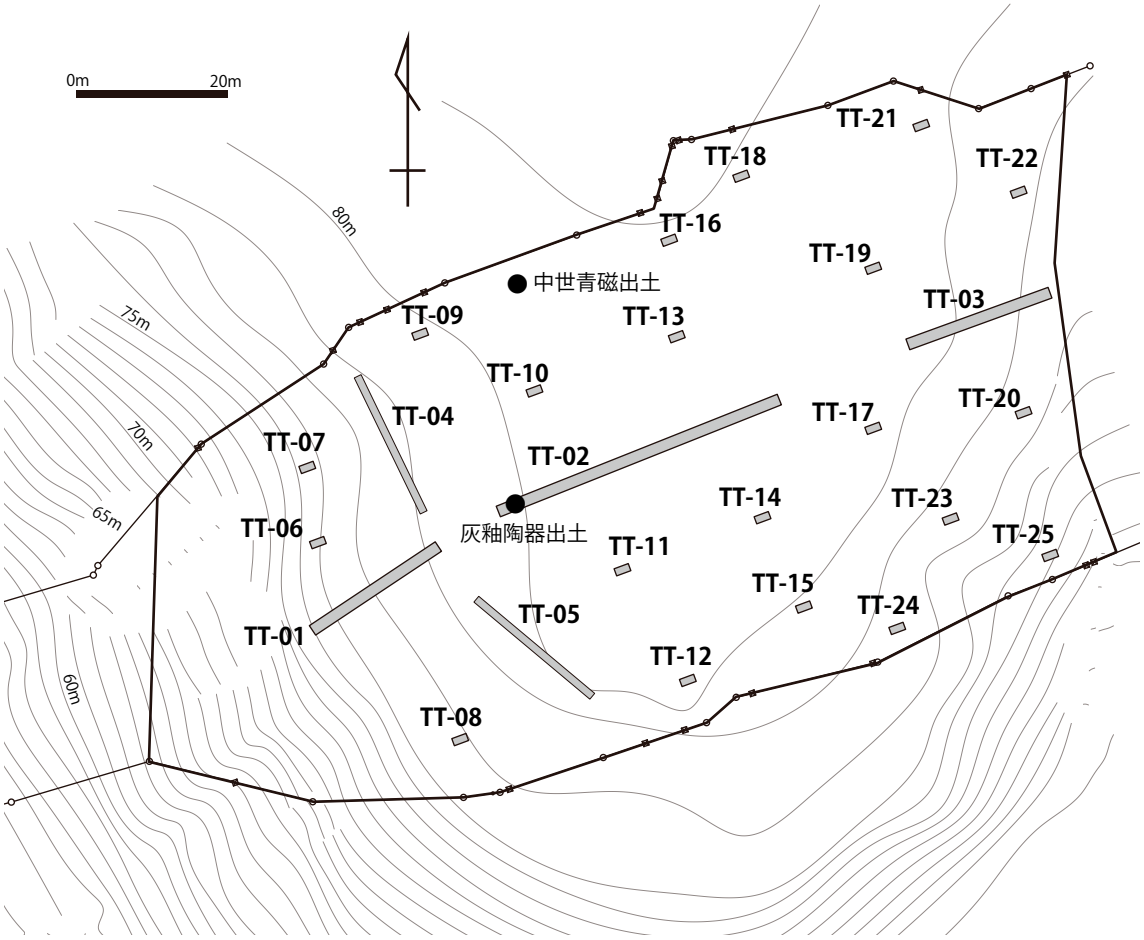


図１　西平地遺跡トレンチ配置図（1:1,000）

滝瀬遺跡始め4遺跡（範囲確認調査）
大名倉（おおなぐら）遺跡/西地（にしち）・東地（ひがしち）遺跡/万瀬（まんせ）遺跡/滝瀬（たきせ）遺跡

所　在　地　北設楽郡設楽町大名倉字滝ノ上ほか、同西地・東地、同町川向字マンゼ、同町八橋字タキセ
（北緯35度6分33秒 東経137度32分44秒、北緯35度6分40秒 東経137度32分40秒、
北緯35度6分49秒 東経137度33分58秒、北緯35度7分10秒 東経137度34分55秒）

調査理由　設楽ダム工事

調査期間　平成25年5月～25年6月

調査面積　400㎡

担　当　者　宮腰健司・永井邦仁

調査の経過　調査は、国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所による設楽ダム工事関連の事前調査として、国土交通省から愛知県教育委員会を通じた委託事業である。今年度は4遺跡が範囲確認調査対象となった。調査方法は、各遺跡内の事業用地内にかかる部分について、1m×2mから最大で3m×５m四方のテスト・トレンチ（T.T.）を設定して基盤層まで掘削し、遺構・遺物の有無を確認するとともに、堆積層の状況を観察するものである。トレンチ数は、大名倉遺跡で18か所（39㎡）、西地・東地遺跡で28か所（70㎡）、万瀬遺跡で30か所（64㎡）、滝瀬遺跡で34か所（227㎡）の、総計110か所（400㎡）である。

立地と環境　大名倉遺跡と西地・東地遺跡は豊川上流のそれぞれ右岸と左岸に位置する。大名倉遺跡（標高419～458m）は、河岸段丘から斜面にかけて立地し、概ね前者が耕作地で後者が現在の集落となっている。西地・東地遺跡が立地する斜面は大半が扇状地となっており、標高450～465mである。万瀬遺跡は豊川支流境川の右岸河岸段丘から斜面に立地し、現在集落は国道256号と設楽大橋北で交差する県道427号（標高419m）の周囲に展開する。滝瀬遺跡は、万瀬遺跡からさらに上流の境川右岸河岸段丘（標高420～422m）から斜面（標高433～438m）に立地するが、河岸段丘の一部が近年に盛土造成されておりその微地形や範囲についてはわからなくなっている。

調査の概要
大名倉遺跡　大名倉遺跡の南北に細長い調査対象地は比較的高位にあり、中央部の民家を挟んで北区域(T.T.-1～9)と南区域（T.T.10～18）に分かれる。北区域北端では土石流堆積が確認され遺構・遺物ともに希薄である。一方南区域ではT.T.11・12で土石流堆積がみられ、付近の方によると近代にも土石流が発生しているという。それ以外ではシルト質の地山が検出され、上位の平場（T.T.17・18）では土坑が検出され近世の陶磁器が出土する。近隣の墓地にある墓石には18世紀後半以降の年号が記されており、その頃から屋敷地化が始まったようである。縄文時代の遺物が多数出土する河岸段丘面とは対照的といえよう。

西地・東地遺跡　西地・東地遺跡では、県道33号西側（T.T.1～3）は崖地形となり、T.T.4～10にかけての尾根状の地形では遺物を包含する黒色土の水平堆積を認められる。当該層はさらに細分されるとみられるが、縄文時代の石鏃（T.T.-6）や宋銭（T.T.-9）が出土し注目される。またT.T.-9からは古瀬戸の平碗なども出土し、付近の昨年度範囲確認調査トレンチで灰釉陶器から山茶碗の出土があることから、縄文時代とともに平安時代から江戸時代の遺構・遺物の分布が想定される。しかしその東方では土石流に由来する厚い傾斜堆積が2m以上に及ぶトレンチがいくつもある。これらは若干の遺物があるものの遺構が検出されていない。わすかに町道脇に平場があって、T.T.-12・13・21で粘土質の安定的な地山が認められるが、ピットと近世の遺物が出土しているのみである。

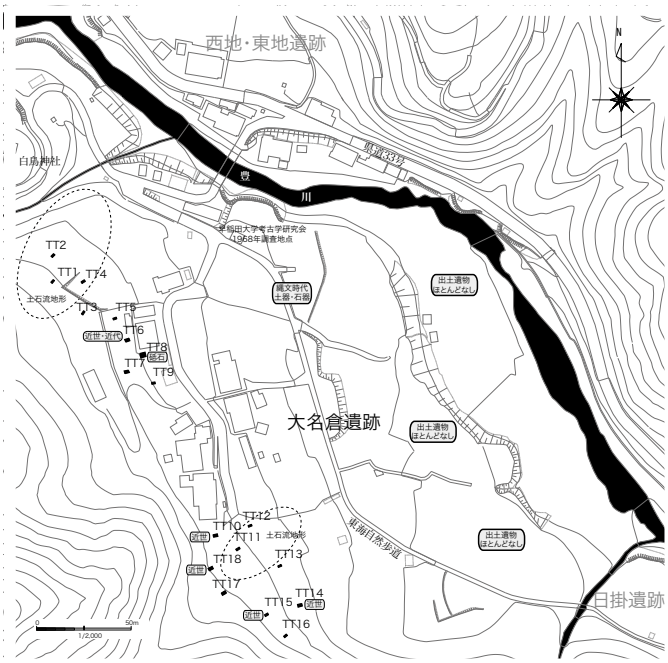
万瀬遺跡　万瀬遺跡では、下位の杉林中のT.T.-1～4は粘土質地山面に遺構はなく、近世後半以降の遺物が若干出土するのみである。一方県道33号直下の平場（T.T.-8・9）の粘土質地山面では、土坑などが検出され縄文土器（無文）が出土した。当該トレンチ北東側では平成21年度の調査で谷地形になることが想定されるので、これに沿う立地の縄文時代集落が想定できよう。そして県道から上位の斜面地は大きく崩れた形跡がなく、その南東下位の平場（T.T.-16～18・24）では遺構の他に近世陶磁器が出土している。地元の方によると、当該平場には「舞台屋敷」と呼ばれる大きな建物があったと言い伝えられており、約100年以上前には失われていたらしい。さらに東方のトレンチでは戦国時代の遺物も出土しているので、現集落に続く戦国・江戸時代の遺構・遺物分布が想定される。加えてT.T.-28・29では縄文土器が出土しており、ここも小規模な縄文時代の居住地になっていたと考えられる。

滝瀬遺跡　滝瀬遺跡は、上位斜面のT.T.1～11で安定的な粘土質地山がみられるので比較的古い地形が保持されているものと考えられる。特にT.T.-6では黒色土を埋土とする幅約1mの溝状遺構を検出し、石器剥片や土器砕片が出土した。広がりは確かめられていないが、一帯に縄文時代の遺構が展開する可能性が考えられる。これに対して下位の調査対象地では、盛土下の河岸段丘面を検証した。T.T.-12～14では氾濫原の堆積であるがT.T.-15・16で砂礫層地山の上に黒色土が認められ縄文土器や石器剥片が多数出土した。平成24年度調査対象地に隣接するT.T.-17～21は、地山面で遺構を検出し縄文土器・石器が出土したことや、T.T.-18と同22の間で地山面の高低差が1.7mもあることから、当該地点に段丘崖があり縄文時代集落の端部になるとみられる。段丘崖線は概ね直線で下流方向にのびるが、T.T.-30・31に谷地形があり、その北側T.T.-32～34で溝状遺構や縄文土器が検出されている。またT.T.-32からは平安時代の灰釉陶器も出土している。

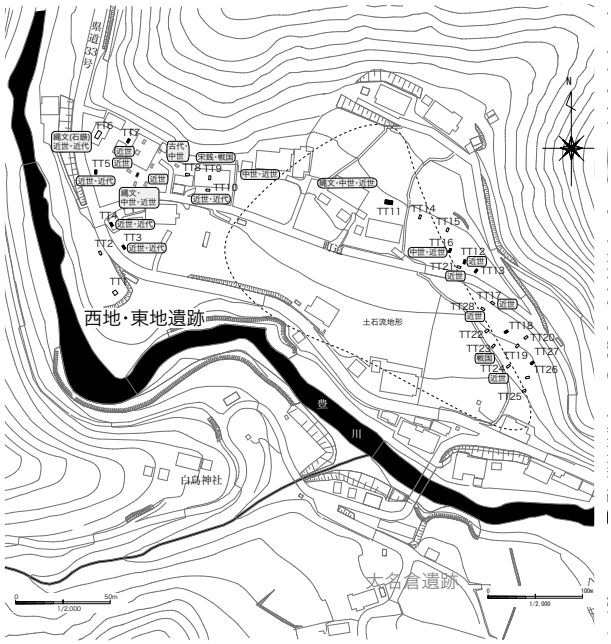
（永井邦仁）



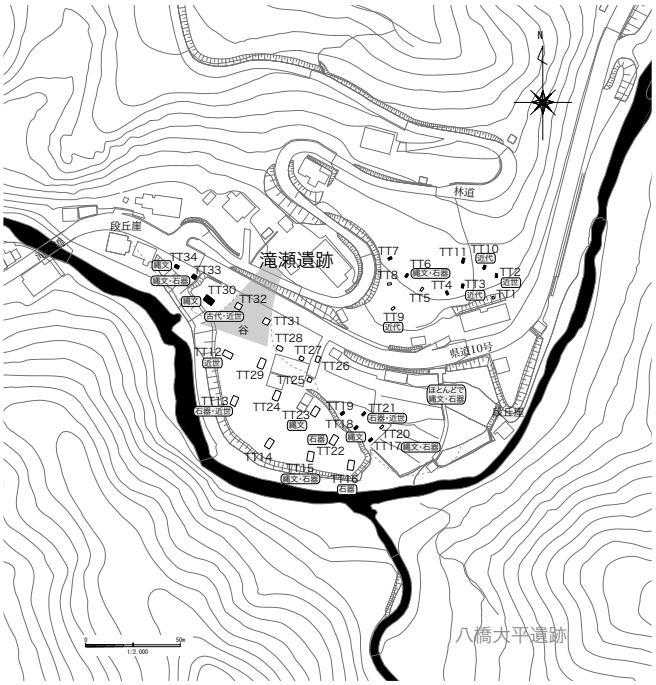
図１　遺跡の位置（1:25,000）



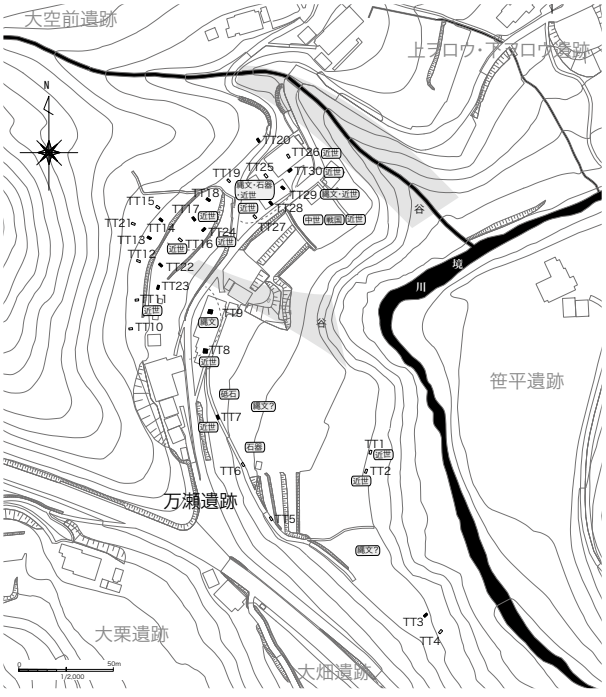
大名倉遺跡　過去の発掘調査および当センターがこれまで実施してきた範囲確認調査は、河岸段丘面を中心とする比較的低位が対象地であったが、本年度はより高位で斜面にかかる地点が対象地となった。出土遺物は前者では縄文時代の土器・石器がほとんどであったのに対し、本年度は縄文土器・石器は全くなく、近世後半を中心とする遺物の出土にとどまった。



西地・東地遺跡　遺跡の西端および東端を中心に確認調査を実施した。特に遺跡西端では石鏃や宋銭といった特徴的な遺物が出土している。一方で東端では遺物の出土が少なく、安定的な遺物包含層はあまり存在していない。特に下位になると土石流などの斜面崩落による堆積が厚い。



滝瀬遺跡　河岸段丘の崖線が途中に小谷を挟みながら直線的にのびる。この崖上に縄文時代集落が展開するとみられるが、崖下の氾濫原からも縄文土器や石器が多数出土しており注意を要する。一方、県道より上位の斜面には比較的緩いところがあり、ここにも縄文時代の遺構・遺物の分布が想定される。

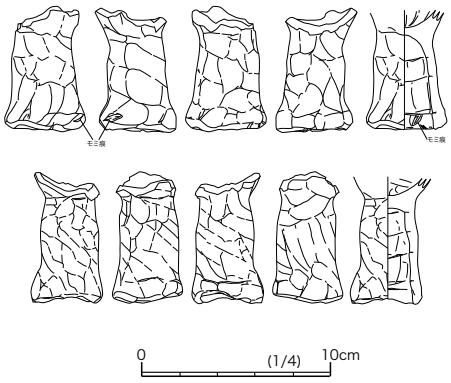


万瀬遺跡　対岸段丘面の笹平遺跡は縄文時代集落とみられるが、T.T.-1～4は数m高くなり遺構・遺物がほとんどない。これに対して上位の平場に縄文土器がみられる。出土トレンチはいずれも沢地形に面しており関連があるとみられる。

図２　範囲確認調査の概要

III. 刊行報告書抄録

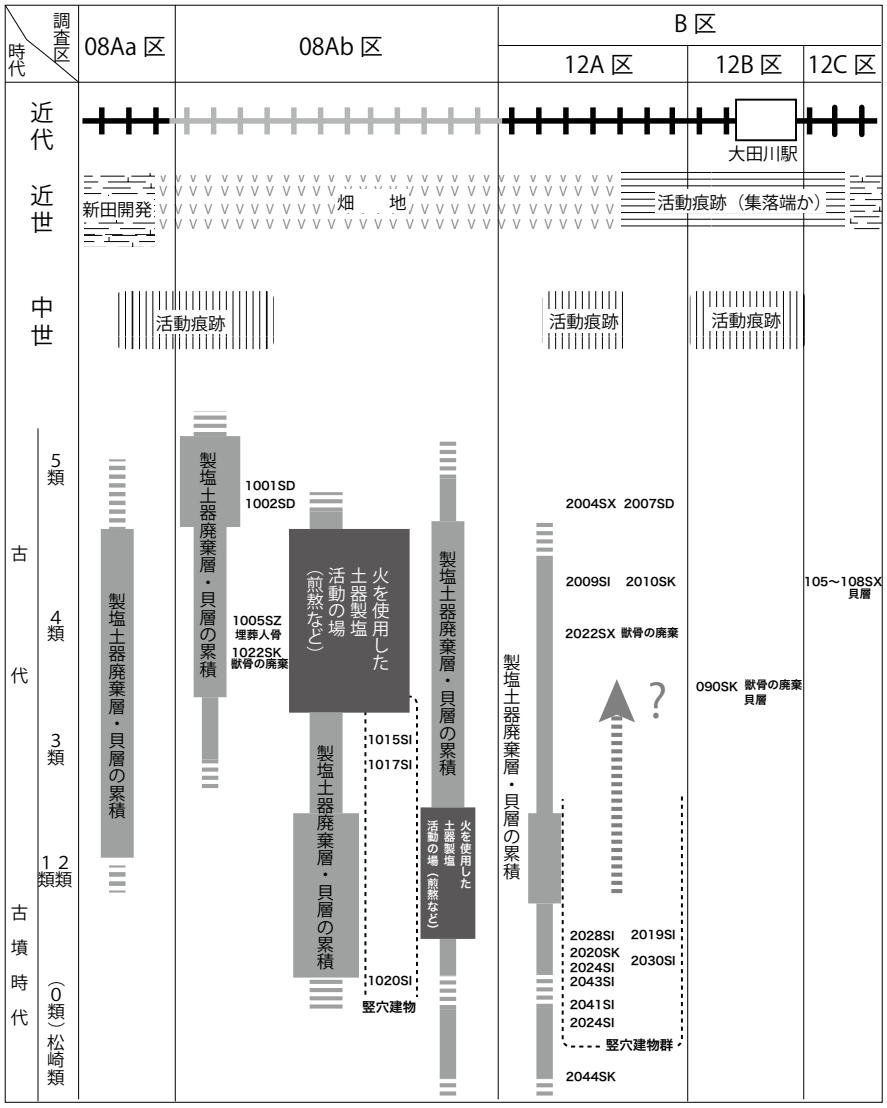
第182集　松崎遺跡 II　上浜田遺跡



製塩土器知多式 1 類

松崎遺跡は、古墳時代から古代にかけての土器製塩遺跡としてよく知られている。調査区は、松崎遺跡の東端と上浜田遺跡の西端をつなぐ形で設定された。調査・整理の結果、遺跡の形成は砂堆に沿った活動痕跡を確認することができ、古墳時代から古代に亘って、極めて盛んな土器製塩活動を確認することができた。特筆すべきものに、土器製塩を実際に行なったと考えられる場の検出と、竪穴建物跡の検出がある。また、古代の埋葬人骨を一体確認することができた。これまでの出土人骨も精査した結果、古代の一時期には埋葬遺構を配する空間が存在していたことも明らかとなった。　（川添和暁）

2008 年度・2012 年度調査における松崎遺跡・上浜田遺跡の変遷



報告書抄録

ふりがな	まつさきいせき　かみはまだいせき
書　名	松崎遺跡II　上浜田遺跡
副書名	
巻　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第182集
編著者名	川添和暁・早野浩二・堀木真美子・鬼頭　剛・堀内晶子・宮田佳樹・畑山智史・中村賢太郎・山形秀樹・伊藤　茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一・Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2014年3月

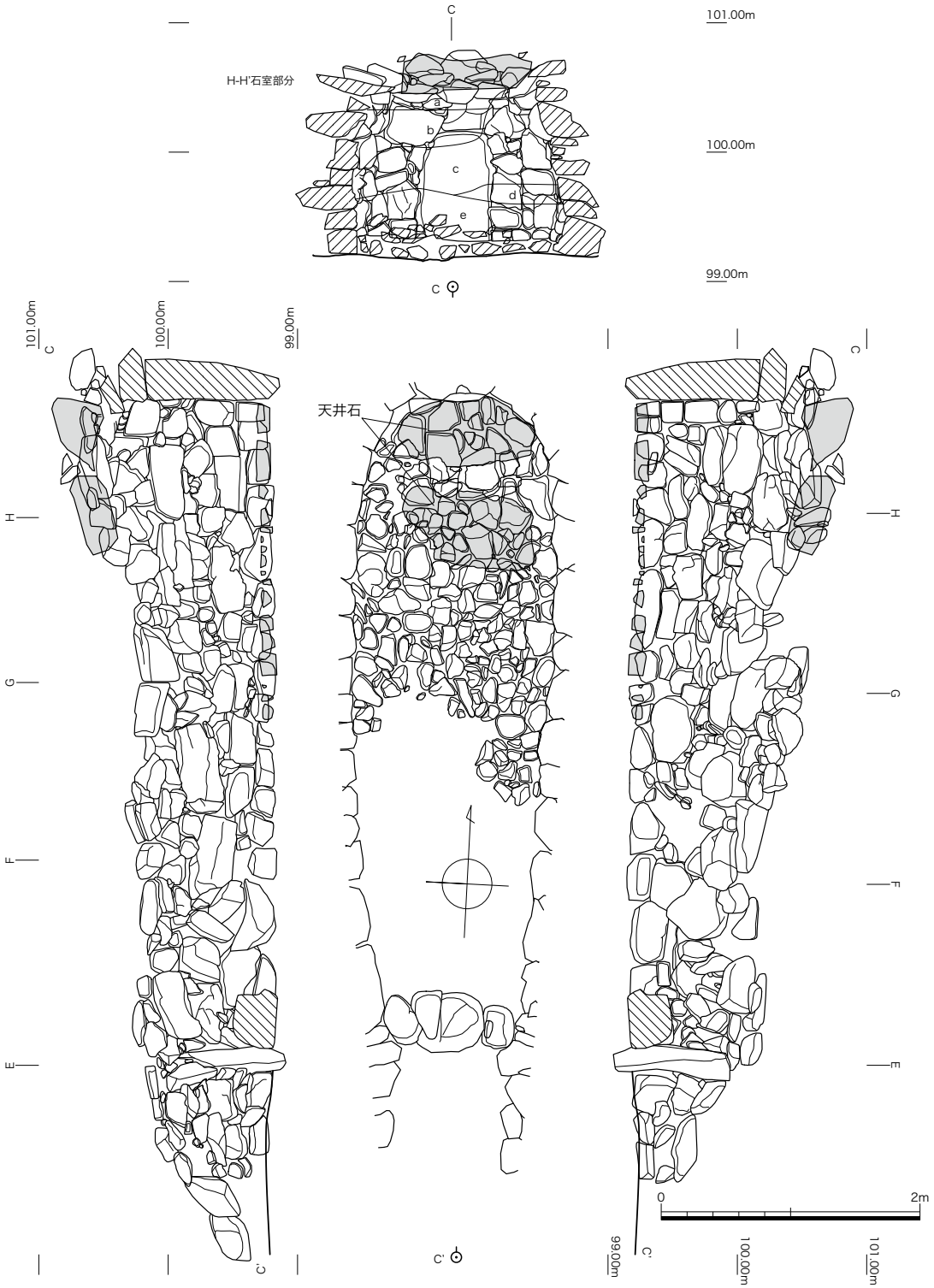
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まつさきいせき 松崎遺跡 ・ かみはまだいせき 上浜田遺跡	とうかいしおおたまち 東海市大田町	23222	43037 ・ 43135	35度1分38秒 ～ 35度1分7秒	136度53分46秒 ～ 136度53分49秒	200808～ 200903、 201205～ 201209	8,300㎡	名古屋鉄道常滑線連続立体交差事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
松崎遺跡	製塩遺跡	古墳～古代	竪穴状遺構・炉跡・包含層・貝層・埋葬人骨	製塩土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・土錘・土製紡錘車・鉄器（鏃・刀子・鎌など）・鉄滓・鹿角製刀子柄・点状刺突具類（角鏃など）・骨針	包含層には製塩土器廃棄層および作業面の塁重を含む
上浜田遺跡	製塩遺跡	古墳～古代	貝層・包含層	製塩土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・土錘・鉄器（鏃・刀子）・鉄滓・鹿角製刀子柄	

文書番号	発掘届出(20埋セ第49号・20・7・25 ／ 23埋セ第179号・24.3.21) 通知(20教生第1136号・20・8・12 ／ 24教生第179号・24.4.10) 終了届(20埋セ第132号・21・3・30 ／24埋セ第83号・24.9.25) 保管証・発見届(20埋セ第132号・21・3・30 ／24埋セ第83号・24.9.25) 鑑査結果通知(21教生第380号・21・5・22 ／24教生第1675号・24.10.4)
要約	本調査は、松崎遺跡の西端および上浜田遺跡の東端を連続して調査したものである。松崎遺跡では、知多式I類および4類段階の製塩に伴う炉跡などの作業場を想定することができた。各段階の廃棄層・貝層を確認することができた一方、作業に伴う竪穴建物跡を検出することができた。さらに、古代における埋葬人骨の出土など、土器製塩とそれに関連する空間利用について、好資料を得ることができた。上浜田遺跡としては、廃棄層の端部と考えられる包含層および貝層を検出した。

第184集　須長10号墳

調査区は古墳時代終末期の古墳を中心とする遺跡で、横穴式石室構造の円墳１基と竪穴建物３棟、土坑等が確認された。円墳の規模は直径約12mで、南側を除いて周溝が巡る。石室は全長約7m、幅約1.5mの横穴式である。前庭部では須恵器高杯、有蓋坏等が集中して検出された。　（松田　訓）



石室平面・立面展開図（1:50）

報告書抄録

ふりがな	すながじゅうごうふん
書　　名	須長10号墳
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第184集
編著者名	松田 訓・パレオラボ株式会社
編集機関	公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦 2014年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
すながじゅうごうふん 須長10号墳	あいちけん しんしろし 愛知県新城市 すながあざてんのう 須長字天王	23221	76215	34度 55分 36秒	137度 31分 45秒	2010.1.5～ 2010.3.30	1,200㎡	第二東海自動車道横浜名古屋線建設に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
須長10号墳	古墳 ほか	縄文～ 古代	古墳 竪穴建物	須恵器・土師器 灰釉陶器	

文書番号	発掘届出(21埋セ第69号・2009.9.30)　発掘許可(21教生第1437号・2009.10.9) 終了届(21埋セ第153号・2010.4.2)　発見届(21埋セ第154号・2010.4.2) 保管証(21埋セ第156号・2010.4.2)　認定(22教生第546号・2010.6.11)

要約

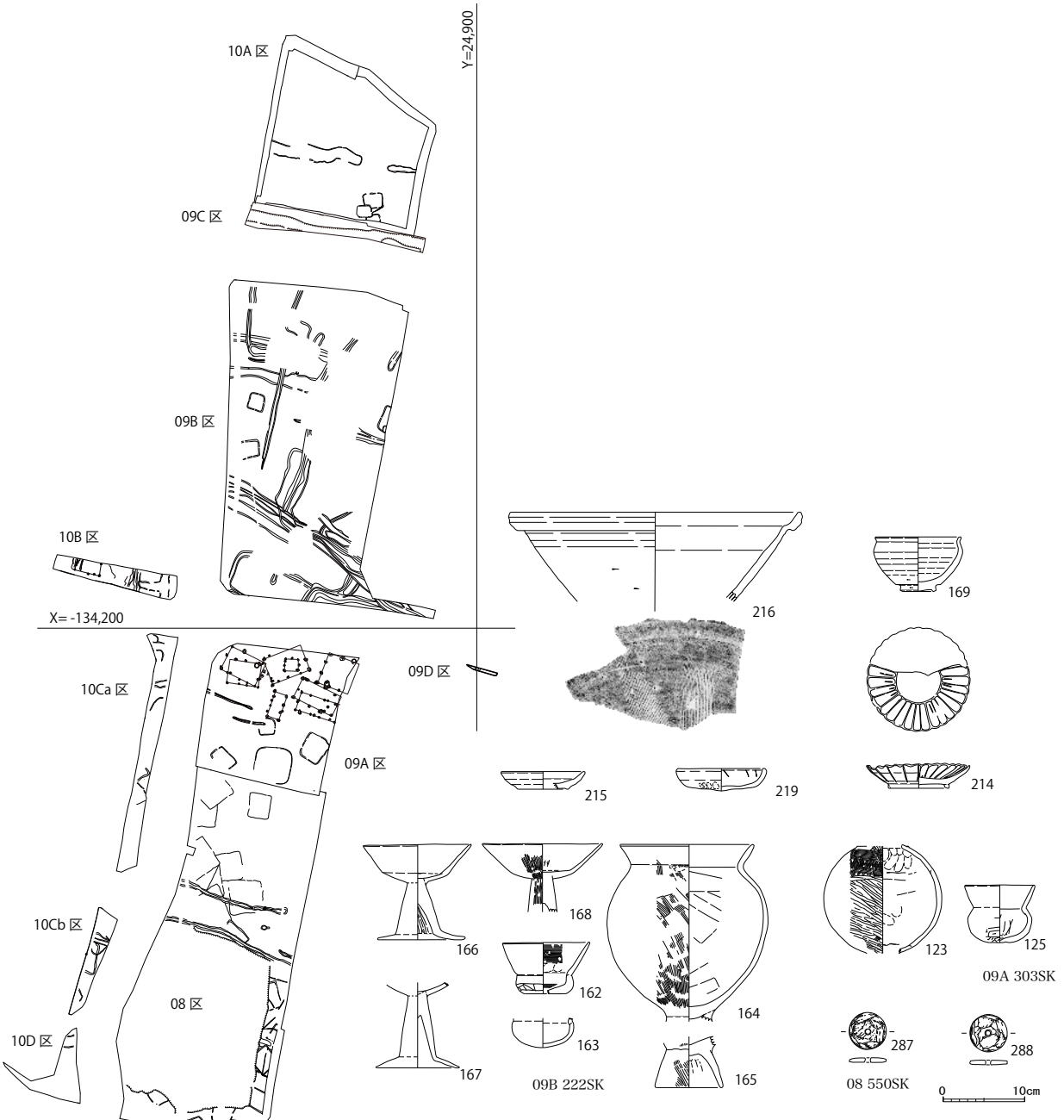
本遺跡は古墳時代終末期の古墳を中心とする遺跡で、横穴式石室構造の円墳1基と竪穴建物3棟、土坑等が確認された。円墳の規模は直径約12mで、周溝が南側を除いて巡る。石室には花崗岩が使用されており、全長約7m、幅約1.5mの横穴式で、天井石は奥壁部2石を除いて消失。前庭部では須恵器高杯、有蓋杯等が集中して検出された。検出された土坑の中では、出土炭化物の放射性炭素年代測定にて、縄文時代早期前葉の値を示すものも含まれた。本遺跡は、丘陵上に展開する遺跡群に含まれているものと思われ、周辺の集落遺跡を含めた実態を解明する上で、貴重な資料として位置づけることができよう。

第185集　東屋敷遺跡

東屋敷遺跡は愛知県豊橋市石巻本町字東屋敷に所在し、地形的には石巻山の西麓の三輪川右岸の河岸段丘南縁部に立地している。

発掘調査は愛知県道路建設課による道路改良工事（主）東三河環状線建設事業に伴うもので、愛知県教育委員会を通じて委託を受けた愛知県埋蔵文化財センターが実施した。総面積は 4420 ㎡で、調査期間は平成 20 年度～平成 22 年度である。

検出できた主な遺構は各時期に及ぶが、弥生時代後期～古墳時代前期と近世にまとまりが確認できた。前者は段丘端部付近に集中する弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴建物群で、後者は調査区全域に広がる溝による区画と、区画中に展開する遺構群で構成されている。　（池本正明）



東屋敷遺跡　主要遺構と出土遺物

報告書抄録

ふりがな	ひがしやしきいせき
書　　名	東屋敷遺跡
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第185集
編著者名	池本正明・鬼頭 剛・本田英貴
編集機関	公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦 2014年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
ひがしやしきいせき 東屋敷遺跡	あいちけん とよはし し 愛知県豊橋市 いしまきほんまちあざ 石巻本町字 ひがしやしき 東屋敷	23210	790333	34度 47分 22秒 世界測地系による	137度 26分 15秒	2008.11.～ 2009.03. 2009.10.～ 2010.02. 2010.05.～ 2010.08.	1,050㎡ 2,060㎡ 1,310㎡ (4,420㎡)	道路改良 工事東三 河環状線

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東屋敷遺跡	集落	弥生時代 終末期～ 古墳時代 中・近世	竪穴建物・土坑 掘立柱建物・溝・土坑	弥生土器・土師器 石製紡錘車 中近世陶磁器	

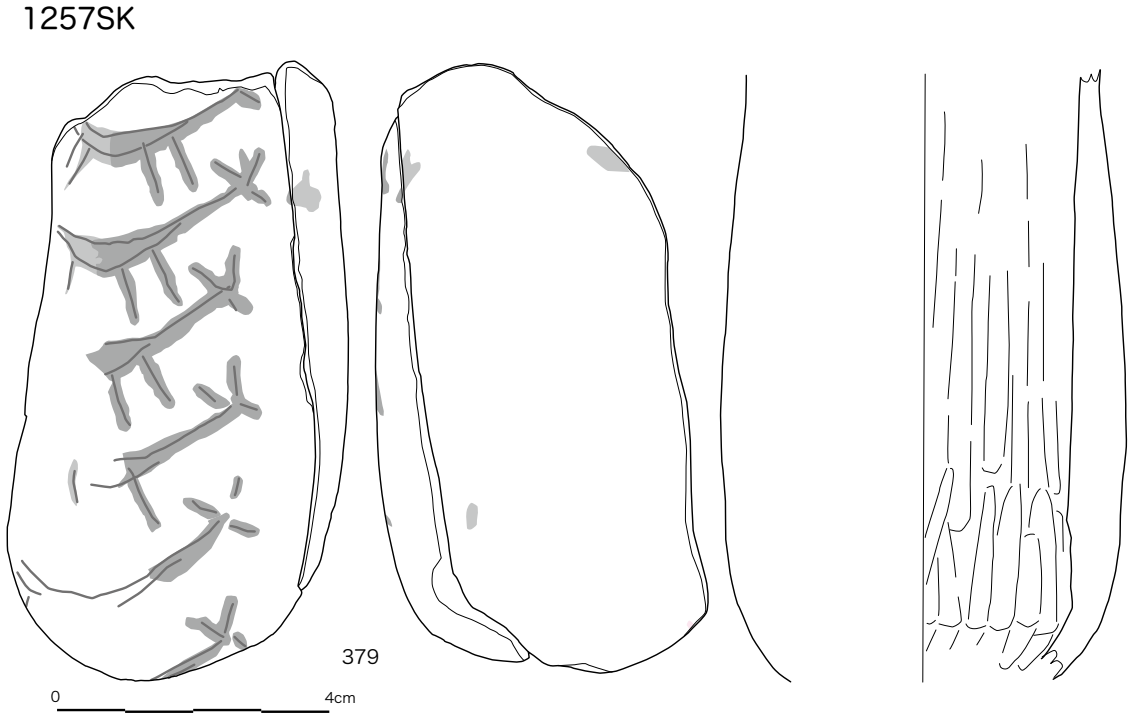
文書番号	発掘届出(20埋セ85 20.11.21・21埋セ43 21.8.4・22埋セ18 22.4.16) 通知(20教生2118 20.12.9・21教生1059 21.8.14・22教生245 22.4.26) 終了届・保管証(20埋セ120 21.3.17・21埋セ144 22.3.24・22埋セ130 22.8.4) 監査結果通知(20豊美587 21.3.23・21豊美618 22.3.30・22豊美210 22.8.9)
要約	弥生時代では台地の縁辺部に竪穴建物が集中している様子を確認できた。中・近世では溝による区画が確認でき、区画の中には柱穴と考えられる小土坑が集中している区画も確認できる。

第186集　一色青海遺跡 III

稲沢市に所在する一色青海遺跡は濃尾平野低地部を代表する弥生時代中期後葉の集落遺跡である。平成3年度以来の調査で、これまでに200棟を超える竪穴建物のほか、平成15年度の調査では集落中枢部で東日本最大級の掘立柱建物も確認されている。

平成21年度におこなった今回の調査では、竪穴建物69棟、掘立柱建物7棟のほか、居住域の北を北西から南東に流れる自然流路を確認した。本遺跡の居住域はこの自然流路によって形成された自然堤防上に展開していることがあきらかとなった。この自然流路は集落継続期間のうちに洪水で埋没し、その後2度にわたって同じ場所に大溝を再掘削している。この自然流路と大溝からは大量の土器のほか、製作途上の木製品や編みカゴ類が出土し、この流れを利用して木製品生産をおこなっていたことがわかった。

また、居住域では長軸が10mを超える大型竪穴建物も確認しており、すぐ南にあたる前回調査区と同様、多い箇所では5〜7回もの遺構の重複があった。さらに調査区の西側に集中する大型土坑群のうちの1基からは、ベンガラで彩色をほどこした鹿6頭を縦方向に並べて描いた筒形土器が出土した。鹿の絵画土器そのものは近畿地方を中心に多数存在しているが、彩色をほどこした例はこれまで九州で1例のみで、さらに赤彩した例はこれが全国初である。　（樋上　昇）



鹿の絵が描かれた筒形土器

報告書抄録

ふりがな	いっしきあおかいいせき
書　　名	一色青海遺跡Ⅲ
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第 186 集
編著者名	樋上　昇・鬼頭　剛・深澤芳樹・中塚武・鈴木三男・能城修一・小林和貴（東北大学植物園）、佐々木由香・黒沼保子・伊藤　茂・安　昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一・Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjliani・小林克也・中村賢太郎・奥野絵美
編集機関	公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24　　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦 2014 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いっしきあおかいいせき 一色青海遺跡	あいちけんいなざわし 愛知県稲沢市 へいわちょうすがたに 平和町須ヶ谷	23220	270013	35 度 14 分 9 秒	136 度 45 分 20 秒	2009.5.1 ～ 2010.3.8	5,500 ㎡	日光川上流流域下水道浄化センター建設

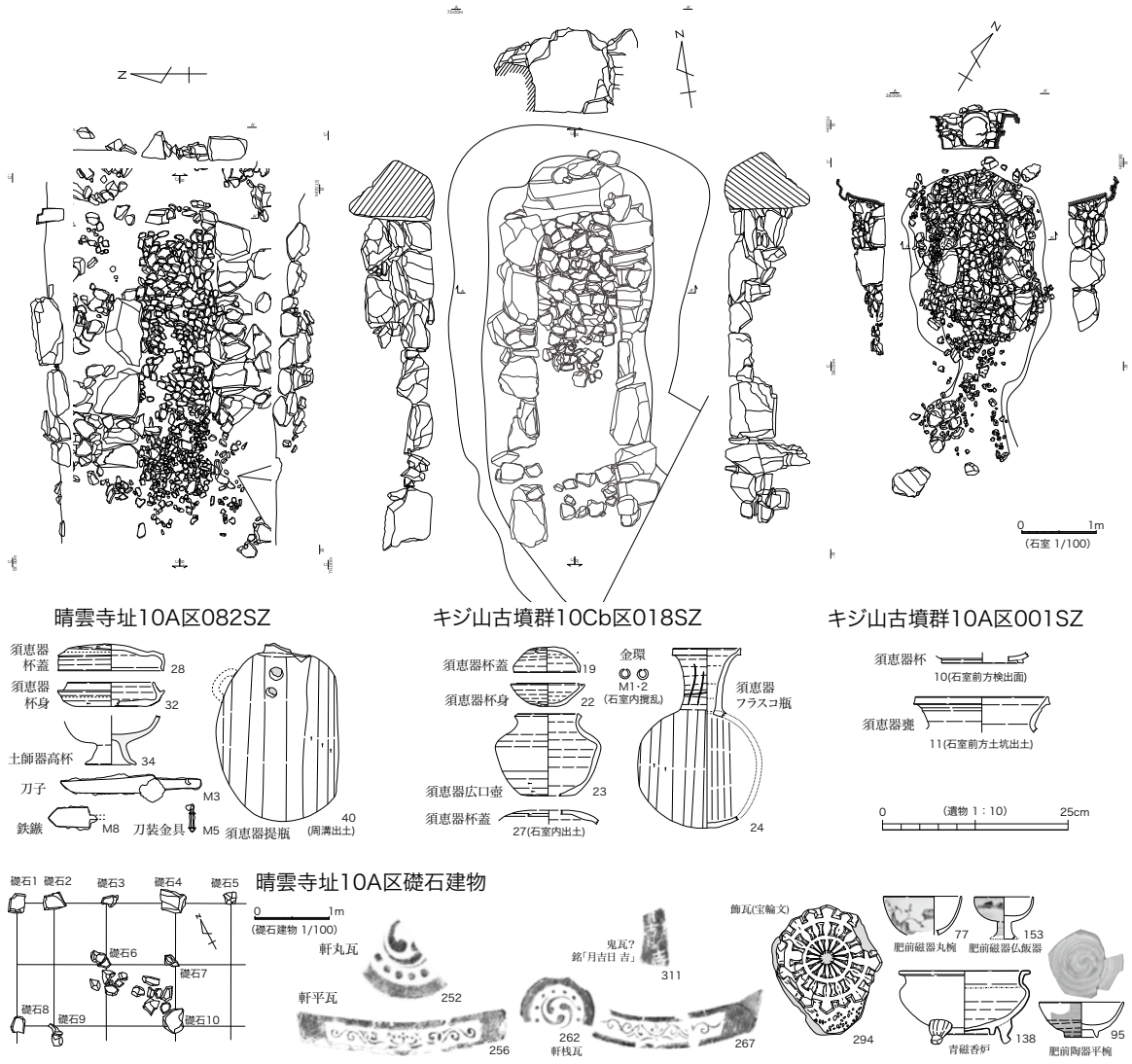
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
一色青海遺跡	集落跡	弥生時代 中期後葉	竪穴建物 69 棟、 掘立柱建物 7 棟、 柵列 3 条、自然流路 3 条、溝 36 条、 土坑 339 基	弥生土器、木製品、 石器、植物遺体	ベンガラによる 鹿の絵画土器
	墓跡	鎌倉～ 戦国時代	溝 94 条、土坑 159 基	山茶碗、木製品	墨書土器

文書番号	発掘届出 : 埋文（21 埋セ第 1 号） 発掘届出：県教委（21 教生第 113 号） 完了報告（21 埋セ第 139 号） 文化財認定（22 教生第 792 号）
要 約	濃尾平野南西部の拠点になる弥生中期後葉の集落跡。集落の中心部を調査し、居住域の北を流れる自然河道とそれの埋没後に再掘削された大溝、大型竪穴建物などを確認した。大型土坑からは全国初のベンガラによる鹿の絵画土器が出土した。

第188集　キジ山古墳群・晴雲寺址

当該遺跡は、豊橋市市街地東方丘陵上にあり、40基以上の古墳群であるキジ山古墳群と、その範囲確認調査の過程で新たに確認された、江戸時代創建の寺院遺跡である晴雲寺址からなる。発掘調査により前者では3基の横穴式石室などを検出した。石室からは多数の須恵器と刀子や鉄鏃などが出土し、ひとつの古墳群における、古墳時代後期から終末期に至る墳墓の変遷をたどることができた。一方後者は、宝永5年（1708）に吉田藩主牧野家の菩提寺として起工されたもので、礎石建物や階段遺構を検出した。18世紀前半を中心とした造営活動が文献史料から知ることが出来るのが特徴である。

遺物整理作業は特に後者にかかる瓦や陶磁器が中心となった。軒桟瓦は同市・吉田城遺跡の武家屋敷で同笵資料が確認され、陶磁器では肥前産の磁器や陶器が目立つことも同遺跡での成果に類似する。また、古墳群（晴雲寺址10A区082SZ）の須恵器の中には、同市・稲荷山古墳群出土のものと同じ特徴的な焼成痕跡のあるものが確認され、須恵器の生産地や流通範囲に示唆が得られた。　（永井邦仁）



キジ山古墳群の横穴式石室と晴雲寺址の礎石建物および出土遺物

報告書抄録

ふりがな	きじやまこふんぐん・せいうんじあと
書　　名	キジ山古墳群・晴雲寺址
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第188集
編著者名	永井邦仁
編集機関	公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦 2014年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
きじやまこふんぐん キジ山古墳群	あいちけん　とよはしし 愛知県豊橋市 ためちょう　のなか　せみかわ 多米町野中・蝉川	23201	791056	34度 47分 22秒	137度 26分 15秒	2010.10.01～ 2011.03.31	1,130㎡	愛知県水道用水供給事業
せいうんじあと 晴雲寺址	あいちけん　とよはしし 愛知県豊橋市 ためちょう　せみかわ 多米町蝉川	23201	791400	34度 47分 22秒	137度 26分 15秒	2010.10.01～ 2011.03.31	10,40㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
キジ山古墳群	古墳	古墳時代	横穴式石室、 周溝	土師器（高杯・長胴甕）、須恵器（蓋杯・提瓶・甕・フラスコ瓶・広口壺）、山茶碗（小皿）、金環、刀子、鉄鏃、両頭金具	小型横穴式石室1基を含む古墳時代後期の群集墳
晴雲寺址	古墳・寺院	古墳時代・江戸時代	横穴式石室、 周溝 瓦葺き礎石建物、 階段状通路	土師器（鍋・小皿・焙烙）、須恵器（蓋杯）、近世瓦、常滑産甕、肥前系染付、瀬戸美濃産陶器、青磁（香炉）、寛永通宝	文献史料から18世紀前半の創建年代がわかる遺物群と銘のある瓦の一部が出土

文書番号	発掘届出（22埋セ第140号・2010.8.31）　通知（22教生第1301号・2010.9.15） 終了届・保管証・発見届（22埋セ第264号・2011.3.14）鑑定通知（22豊教美第511号・2011.3.23）

要約

本遺跡は豊橋市市街地東方に位置する丘陵端部（通称：キジ山）に立地する、古墳時代後期の群集墳と、近世寺院跡である。古墳群では3基の横穴式石室とキジ山34号墳の周溝、および削平された古墳跡とみられる遺構1基を検出した。石室は無袖のタイプで、そのうち1基は全長が2mに満たない小型横穴式石室であり、終末期のものと考えられる。また晴雲寺址082SZは6世紀後半のもので西へ開口している。

一方、キジ山西側斜面を一部削平して造られた寺院址は、文献史料で知られる「屏風山晴雲寺」址とみられ、宝永5年（1708）に当時の吉田藩主であった牧野家がその菩提寺を造営したのが始まりである。しかしその転封により造営は頓挫し、観音堂が完成した程度で、礎石建物もそれに相当すると考えられる。

IV. 埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会の記録

平成25年度　埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会について

1　目的

愛知県埋蔵文化財センターの発掘調査により出土した資料を広く公開するとともに、歴史講座や体験プログラムなど多彩な企画を通じて、県民の埋蔵文化財に対する理解を深めるとともに、文化財保護意識の向上を図る。

2　主催

愛知県教育委員会
弥富市教育委員会
(公財)愛知県教育・スポーツ振興財団

3　主管

愛知県埋蔵文化財センター

4　埋蔵文化財展

1)会場

A 弥富市歴史民俗資料館
B 愛知県埋蔵文化財調査センター
C 愛知県清洲貝殻山貝塚資料館

2)会期

平成25年7月20日(土)から9月1日(日)

3)展覧会名

「あいち考古楽市(こうこがくいち)2013」

4)開催趣旨

弥富市歴史民俗資料館は、木曽川下流域の新田開発によってできた市域の歴史や民俗、産業、自然等を紹介している。

愛知県清洲貝殻山貝塚資料館は、東海地方最大の弥生集落朝日遺跡の出土品を広く県民に公開するための施設である。

愛知県埋蔵文化財センターは、調査研究成果と文化財保護思想の普及を目的とした「埋蔵文化財展」を毎年県内で開催している。

今年度は、これら3施設の協同企画として本展を行い、広く県民に埋蔵文化財に触れる機会を増やし、保護思想の普及を図るものである。



展示会ポスター

弥富市歴史民俗資料館では、地域の特産である金魚にちなみ「いきもの考古楽(こうこがく)」展として、いきものに関する考古資料等の展示を実施。

愛知県清洲貝殻山貝塚資料館では、「遺跡初見！(いせきはっけん)」展として、豊田市内や稲沢市内で実施された最新の発掘調査成果を展示。

愛知県埋蔵文化財調査センターでは、2階にある資料管理閲覧室において常設展「考古楽さんぽ」展として名古屋城三の丸遺跡や清洲城下町遺跡、下津宿遺跡等の遺物を展示。収蔵庫C において「土器クロニクル」展として、時代や地域による土器の違いなどを確認できるような展示を実施。その他1階ロビー等において発掘調査のパネル展示等を行った。

5）展示構成

A：弥富市歴史民俗資料館

「いきもの考古楽」展

B：愛知県埋蔵文化財調査センター

2階 資料管理閲覧室

「考古楽さんぽ」展

―尾張国の城下町と街道―

2階 収蔵庫C 「土器クロニクル」展

1階 ロビー　2階 廊下

パネル展示

C：愛知県清洲貝殻山貝塚資料館

「遺跡初見！（いせきはっけん）

- 新出土品展」

・愛知県新出土品展

・弥生のトリとシカ

5　関連事業

1）弥富ふるさとガイドと歩く

「明治の東海道と近代化遺産」

主催：弥富市教育委員会

愛知県埋蔵文化財センター

日時：7 月28 日（日）9 時から12 時

場所：弥富市歴史民俗資料館周辺の3 キロ

歴史民俗資料館―竹長押茶屋―ふたつやの渡し―水郷の塔―伊勢湾台風災害復興碑―立田輪中人造堰樋門―服部担風漢詩碑―山口誓子金魚句碑―埋蔵文化財センター

参加費：無料

参加記念品「きんちゃんストラップ」

参加者：21名

2）親子歴史バスツアー

主催：弥富市教育委員会

愛知県埋蔵文化財センター

日時：8 月11 日（日）9 時から16 時

場所：弥富市歴史民俗資料館―埋蔵文化財調査センター―貝殻山貝塚資料館―海津市歴史民俗資料館ほか

参加費：大人400 円　小学生250 円

参加記念品「パレス土器ペーパークラフト」

参加者：28名



チラシ　表



チラシ　裏

３）歴史連続講座「いきものと歴史の講座」

・第1 回：7 月21 日（日）

「ムシと考古学」森　勇一（金城学院大学）

＊昆虫遺体から読む環境考古学の話。

・第２回：8 月 4 日（日）

「ホネと人と」

川添和暁（愛知県埋蔵文化財センター）

＊考古遺物を中心に骨が語る歴史の話。

・第３回：8 月18 日（日）

「人と金魚の文化史」

伊藤隆彦（弥富市歴民俗資料館）

＊弥富市と金魚の関わりを

歴史と環境から解説。

＊各会ともに10 時から11 時30 分

＊会場は愛知県埋蔵文化財調査センター

2階研修室

＊出席者に記念品

（エコバック、団扇、石包丁キット）

参加者：第１回16名、第２回23名、第3回26名

４）楽市縁日

―あいち考古楽市・オープニングイベント―

日時：7 月20 日（土）　10 時から12 時

会場：愛知県埋蔵文化財調査センター駐車場

内容：金魚すくい（弥富市）、お面作成、射的、

水風船つり、輪投げ

＊考古遺物にまつわる景品

参加者：97名

５）考古学セミナー「あいちの考古学2013」

主催：愛知県埋蔵文化財センター・

弥富市教育委員会

日時：8 月24 日（土）午後

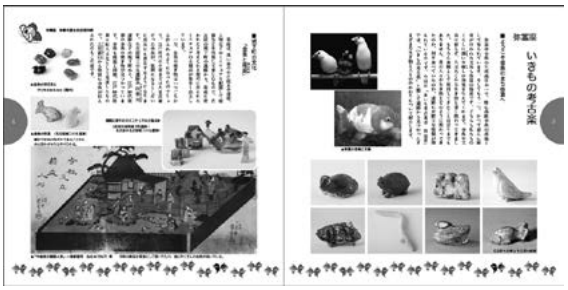
8 月25 日（日）　午前・午後

会場：弥富市社会教育センター

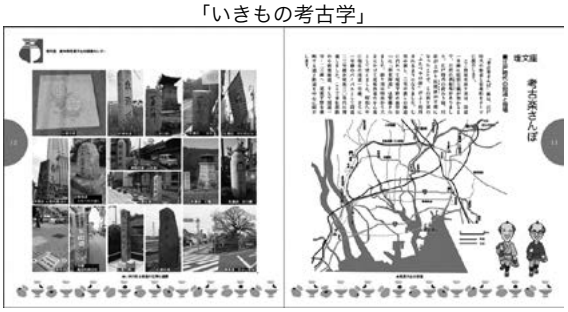
内容：県内の考古学的活動の発表（詳細は後述）



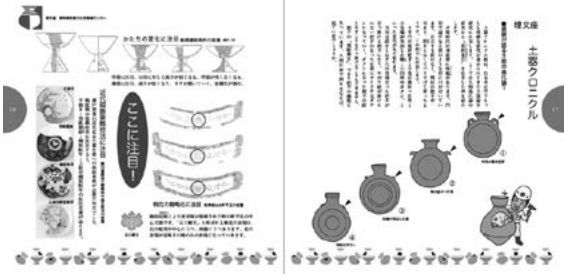
リーフレット　表紙



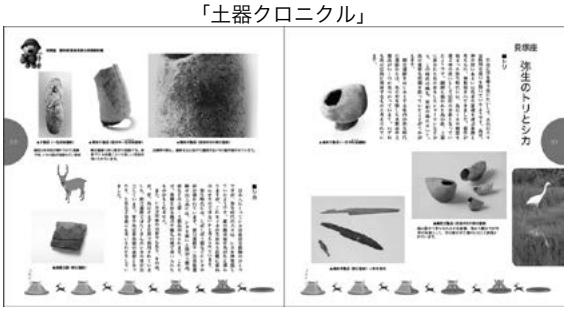
「いきもの考古学」



「考古楽さんぽ」



「土器クロニクル」



「弥生のトリとシカ」

６）愛知県埋蔵文化財センター事業

A. バックヤードツアーと展示解説　５回

金曜（7/26、8/2、8/9、8/23、8/30）

10 時から11 時

＊収蔵庫や整理作業などを職員が解説しながら特別公開。

参加者：9名、15名、5名、2名、７名



B. 図書室開放　５回

イベント開催日

（7/21、8/4、8/18、8/24、8/25）

10 時から16 時

＊公共図書館では通常閲覧できない図書を自由に閲覧。

参加者：8名（8/24）、5名（8/2）



C. ワークショップ　２回

10 時から11 時30 分

第１回：7 月27 日（土）

土人形ワークショップ　講師：武部真木

＊江戸時代の出土品や一宮市尾西に伝わる伝統工芸品を職員が解説。

レプリカの絵つけ体験。



展示会用キャラクターイラスト

第２回：8 月 3 日（土）

土器ドキワークショップ　講師：永井宏幸

＊土器クロニクル展を職員が解説、土器の観察と実測図作成を体験。

参加者：4名、6名



D. 家族の絆づくり事業（発掘体験バスツアー）

日時：8 月31 日（土）

主催：愛知県教育・スポーツ振興財団

場所：八畝畑遺跡、埋文展ほか

内容：発掘体験と展示解説など（詳細は後述）



3館を巡るスタンプラリーカード

７）弥生体験講座「鳥の形の土器をつくる」

日時：7 月27 日（土）

10 時から11 時30 分

14 時から15 時30 分　計２回

主催：愛知県清洲貝殻山貝塚資料館

会場：愛知県清洲貝殻山貝塚資料館

内容：鳥形土製品をオーブン粘土で作成。

参加費：無料

参加者：35名



埋文展　会場


展示状況　2階ロビー


埋文展「土器クロニクル」会場


埋文展「土器クロニクル」会場



埋文展「考古楽さんぽ」会場


埋文展「考古楽さんぽ」会場


埋文展　開会式


考古楽縁日　金魚すくい



考古楽縁日　水風船



考古楽縁日　お面つくり



土人形ワークショップ



ドキ土器ワークショップ



歴史連続講座



歴史連続講座



街あるきツアー



バックヤードツアー

第2回 考古学セミナー「あいちの考古学2013」の記録

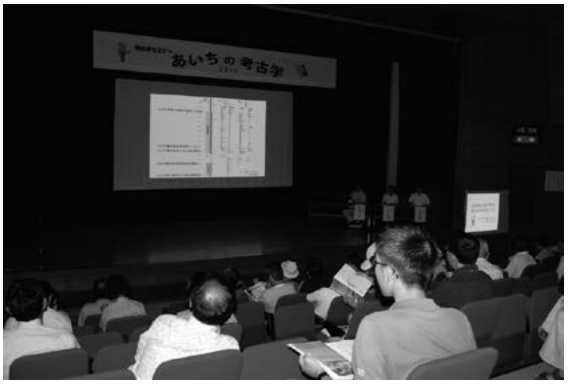
愛知県内外には、県・市町村教育委員会、財団法人、大学、特定非営利活動法人（NPO）、民間調査組織、遺跡調査会、その他研究グループ、同好会、ボランティア団体等といった考古学関係団体が活動している。昨年度に引き続いて、これらの団体が一同に会して近年の調査研究の成果をプレゼンテーション・映像放映、基幹報告・セッション、ポスターセッションなどを通じて広く一般県民に公開し、団体間で情報を共有することをコンセプトとして、考古学セミナー「あいちの考古学2013」を開催した。また、前期古墳の調査成果のプレゼンテーションに関連して、大手前大学森下章司氏による基調講演とセッションを企画した。

主催：愛知県埋蔵文化財センター・弥富市教育委員会
日時：平成25年８月24日（土）午後１時から午後４時、８月25日（日）午前10時から午後４時
場所：弥富市総合社会教育センター（中央公民館）１階ホール・ロビー

《内容》

８月24 日（土）
第１部　プレゼンテーション・セッション　13 時から16 時
13：10 ～ 13：25　トヨタテストコース関連遺跡 鵜飼雅弘（愛知県埋蔵文化財調査センター）
13：25 ～ 13：40　岩倉市花ノ木遺跡・中街道遺跡の調査 新宅輝久（株式会社アーキジオ）
13：40 ～ 13：55　天白元屋敷遺跡出土遺物の量的分析 鷺坂有吾（株式会社二友組）
14：10 ～ 14：25　中津川市上県２号窯跡の調査成果 小山美紀（愛知学院大学）
14：25 ～ 14：40　３次元計測による出土遺物の梱包 白樫 淳（株式会社アコード）
14：40 ～ 14：55　犬山街プロジェクト 奥野絵美（NPO 法人 ニワ里ねっと）
15：10 ～ 16：00　■セッション１「清須城と城下町の復元的研究」
鈴木正貴（愛知県埋蔵文化財センター）・辻 広志/ 大塚正樹（国際文化財株式会社）


会場（弥富市総合社会教育センター）



プレゼンテーション・セッション会場

８月25 日（日）
第２部　プレゼンテーション　10 時から12 時
10：10 ～ 10：25　長野県阿智村治部坂遺跡の調査成果 小西智也（愛知学院大学）
10：25 ～ 10：40　橋良遺跡の調査 村上 昇（豊橋市文化財センター）
10：40 ～ 10：55　相生塚古墳の調査 岩原 剛（豊橋市文化財センター）
11：10 ～ 11：25　名古屋大学構内における窯跡の調査成果 腰地孝大（名古屋大学）
11：25 ～ 11：40　伊勢斎宮内院地区の遺構変遷に関する一考察 脇田大輔（三重大学）
11：40 ～ 11：55　本證寺境内地の発掘調査 西島庸介（安城市教育委員会）
第３部 「あいちの古墳時代2013―前期編―」 13 時から16 時
13：00 ～ 13：15　東之宮古墳の調査 鈴木康高（犬山市教育委員会）
13：15 ～ 13：30　円満寺山古墳の調査 日置 智/ 藤井陽輔（海津市教育委員会/ 関西大学）
13：30 ～ 13：45　中社古墳の調査 伊藤正人（名古屋市見晴台考古資料館）
14：00 ～ 14：45　●基調講演「前期古墳と地域」森下章司（大手前大学）
15：00 ～ 16：00　■セッション２「前期古墳と地域」
鈴木・日置/ 藤井・伊藤・森下・赤塚次郎（愛知県埋蔵文化財センター）

ポスターセッション・資料配布
「志段味古墳群の調査と「歴史の里」」 名古屋市見晴台考古資料館
「平成24 年度畑間・東畑遺跡発掘調査」 東海市教育委員会
「美浜町歴史フォーラムのあゆみ」 福井県美浜町教育委員会
「ライブラリ・コンテンツ企画について」 ナカシャクリエイテブ株式会社
「写真測量の応用について」 株式会社CUBIC
「14C ウィグルマッチングによる年代測定」株式会社パレオ・ラボ
「樹種同定の仕組みと実演」 パリノ・サーヴェイ株式会社
（その他参加団体）鈴鹿市考古博物館　安城市教育委員会　NPO 法人 ニワ里ねっと
国際文化財株式会社　株式会社アコードなど



プレゼンテーション（小山氏）



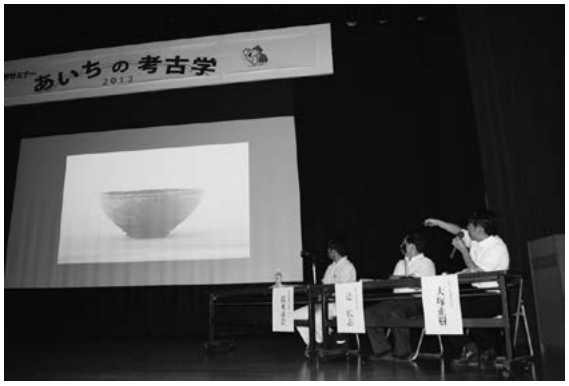
プレゼンテーション（村上氏）



プレゼンテーション（脇田氏）



基調講演（森下氏）

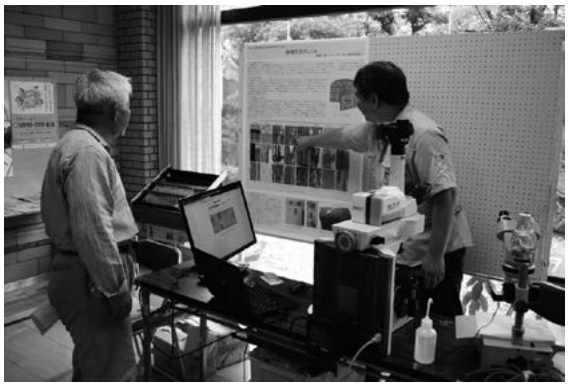


セッション１


セッション２


ポスターセッション会場


ポスターセッション（NPOニワ里ねっと）


ポスターセッション（樹種同定の実演）


ポスターセッション（3D画像の体験）

V. 埋蔵文化財センターの活動

資料の貸出・提供

貸出先	目的	遺跡名	貸出・提出資料		期間
有限会社　リゲル社	「歴史REAL　信長の城（仮題）」（平成25 年4 月刊行予定）に利用のため。	第127 集　名古屋城三の丸遺跡	二の丸遠景、出土土器写真	2点	2013.4.8
		第60 集　名古屋城三の丸遺跡	堀の写真	1点	
		第16 集　名古屋城三の丸遺跡	武家屋敷の堀の写真	1点	
		第44 集　名古屋城三の丸遺跡	竪穴状遺構写真、武家屋敷の井戸の写真	2点	
		第17 集　清洲城下町遺跡	武家屋敷の溝の写真、土師器皿の写真	2点	
		第183 集　清洲城下町遺跡XI	金属製品生産関連の遺構写真、出土遺物の写真	2点	
		平成24 年度埋蔵文化財展リーフレット掲載図	前期清須城の復元案	1点	
公益財団法人　瀬戸市文化振興財団	「出土品点『赤津焼きの歴史』」（平成25 年4 月20 日～7 月7 日）に利用のため。	第135 集　瓶子窯跡	遺構写真	3点	2013.4.12
愛知県埋蔵文化財調査センター	愛知県埋蔵文化財調査センターWeb に利用のため。	第135 集　瓶子窯跡	遺構写真	3点	2013.5.23
有限会社　樹林舎	学校法人中西学園『Napre 75」に利用のため。	第119 集　金萩遺跡	遺物写真　ナイフ型石器（1515）119-196.jpg、石鏃（1517）119-200.jpg	2点	2013.5.29
株式会社　山川出版	『ビジュアル版日本史図録（仮称）」高等学校用の日本史副教材に利用のため。	第30 集　朝日遺跡	杭列写真　030-013.jpg	1点	2013.6.4
鈴木善阿弥さん顕彰会	区民向けの地元の歴史についてのパンフレットに利用のため。	第113 集　矢並下本城	推定復元図	1点	2013.6.7
有限会社ノトーリアス	『邪馬台国・卑弥呼の真実（仮）』（徳間書店発行）に利用のため。	第30 集　朝日遺跡	61D 区下面遺構群　全景（030-248.jpg）	1点	2013.6.13
株式会社G．B	『日本の古代史～邪馬台国の真実』（徳間書店）に利用のため。	第30 集　朝日遺跡	逆茂木（030-012.jpg）、杭列（030-013.jpg）、大型方形周溝墓（35KU-025.eps）	3点	2013.6.17
		第32 集　朝日遺跡	銅鐸（032-017.jpg）、装身具（032-032.jpg）	2点	
みよし市教育委員会	『新編　三好町誌』本文編』に利用のため。	第56 集　K-40 号窯跡	全景（056a-001.jpg）	1点	2013.6.24
特定非営利活動法人尾張小牧歴史文化振興会	展示会『日本城史展』に利用のため。	第30 集　朝日遺跡	全景西から（030-002.jpg、030-003.jpg）、杭列（030-013.jpg）	3点	2013.6.13
株式会社　文英堂	高校生用学習参考書『理解しやすい日本史B』（ 平成26 年３月刊行予定）に利用のため。	第30 集　朝日遺跡	56A2 区方形周溝墓（030-130.jpg）	1点	2013.7.16
個人	春日井市教育委員会発行『郷土誌かすがい』第72 号(平成25 年11 月1 日発行予定）に利用のため。	年報　昭和62 年度	町田遺跡第２図　主要遺構配置図（p.55）	1点	2013.8.7
静岡市教育委員会	特別展『弥生の戦い～その時登呂ムラは？！ -』に利用のため。	第30 集　朝日遺跡	楯出土状況（034-005.jpg）、楯（032-008.jpg）、逆茂木（ 030-012.jpg）、環濠（030-001.jpg）、乱杭（030-013.jpg）、防御施設（030-014.jpg）、防御施設（030-014.jpg）、防御施設復元図	7点	2013.8.23
		第138集　朝日遺跡7	南上空からの朝日遺跡周辺（138-top010.jpg）	1点	
株式会社同成社	ものが語る歴史シリーズNo.30『イヌの考古学』に利用のため。	第138 集　朝日遺跡7	イヌの頭蓋骨	1点	2013.9.6
		第34 集　朝日遺跡5	イヌの頭蓋骨	1点	
株式会社ユニフォトプレスインターナショナル	高等学校日本史資料集『最新日本史図説』（株式会社帝国書院発行）に利用のため。	第30 集　朝日遺跡1	逆茂木検出状態（030-012.jpg）	1点	2013.9.9
豊田市教育委員会	根川古墳群範囲確認調査に利用のため。	1990年度調査　根川古墳群	調査測量図	1式	2013.9.10
西尾市教育委員会	企画展図録「幡豆の城館」に利用のため。	第69 集　鳥羽城跡	第37 図、図版1、2	3点	2013.9.13
一宮市博物館	平成25 年度　特別展「縄文から弥生へ～馬見塚遺跡の時代」に利用のため。	第21 集　麻生田大橋遺跡	図版82　SZ47（021-044）	1点	2013.9.17
		第95 集　牛牧遺跡	巻頭カラー図版　SZ32　拡大写真(095-013)、写真図版７ SZ32(095-047、048)、SZ34(095-008、049)、写真図版8 SZ41(095-009、055)、写真図版９ SZ55(095-064、065)	10点	
		第87 集　三ツ井遺跡	第2 図、第９図（転載）	２点	
愛西市教育委員会	平成25 年度　特別展に利用のため。	清洲城下町遺跡	2011 年度はぎ取り	1点	2013.9.18
		第54集　清洲城下町遺跡	62C 区SE4035 写真　（054-025.jpg）	1点	
		第177集　日置本郷B 遺跡	09A 区東壁井戸付近写真	1点	
株式会社　CTV MID ENJIN	学校法人河合塾が製作する「日本史」の映像授業に利用のため。	第33集　朝日遺跡	磨製石斧（033-002.jpg）	1点	2013.10.21
		第73集　朝日遺跡	石鏃(073-062.jpg)	1点	
		第83集　朝日遺跡	屈葬(083-042.jpg)	1点	
		第94集　岡島遺跡	高杯(094a-048.jpg)	1点	
		第107集　猫島遺跡	方形周溝墓(107-013.jgp)	1点	
西尾市立福地中学校	西尾市教育委員会が製作する「副読本　西尾」（平成26 年３月刊行予定）に利用のため。	第106集　西川原古墳	出土土器5（106-014.jpg）、金属製品8・9(106-017.jpg、106-019.jpg)、金属製品10・11(106-021.jpg、106-020.jpg)	5点	2013.11.14

貸出先	目的	遺跡名	貸出・提出資料		期間
株式会社学研パブリッシング	「新説・信長の城」（著者：千田嘉博）『歴史群像別冊歴史発見２号』に利用のため。	第65集　清洲城下町遺跡	93D 区遠景（35KU_054.jpg）	1点	2013.12.26
		第70集　清洲城下町遺跡	94 区（35KU_154.jpg）	1点	
		第183集　清洲城下町遺跡	11A 区３面遺構（183-002.jpg）、11B 区2 面遺構（183-015.jpg）、0277 出土遺物（183-140.jpg）	3点	
		第44集　名古屋城三の丸遺跡	SB301 全景(044-001.jpg)	1点	
		第60集　名古屋城三の丸遺跡	巨大な堀(060-S03.jpg)	1点	
		第127集　名古屋城三の丸遺跡	井戸SK185 出土遺物（127-365.jpg）	1点	
		第161集　名古屋城三の丸遺跡	屋敷境の溝と柱穴列(161-017.jpg)	1点	
公益財団法人 土岐市文化振興事業団	特別展「消費遺跡から見る美濃桃山陶」に利用のため。	第15集　名古屋城三の丸遺跡	調査区全景、SK415	2点	2013.12.26
		第60集　名古屋城三の丸遺跡	名古屋城全景（南より）	1点	
		第53集　清洲城下町遺跡	61CD 区全体、SK6151、SK7029	3点	
		第54集　清洲城下町遺跡	91A 区上面全体	1点	
安城市歴史博物館	特別展「大交流時代ー鹿乗川流域遺跡群と古墳出現前夜の土器交流-」に利用のため。	第144 集下懸遺跡	図版92　B 区SU01 上面写真	1点	2014.1.10
		第168 集姫下遺跡	写真図版7　05B 区２面全景北部写真、写真図版23　907　写真	2点	
		五反田遺跡現地説明会資料	弥生時代終末期～古墳時代初頭の遺構図、調査区全景写真、ガラス玉・勾玉写真	3点	
		寄島遺跡現地説明会資料	主要遺構配置図	1点	

<<平成25年４月～平成26年１月>>

ホームページほか

Web更新データ

今年度のブログにあわせ、SNS である FaceBook と Twitter への投稿を埋文展の広報に合わせて開始した。FaceBook および Twitter には、ブログ記事の紹介とお知らせ程度の軽微な記事を掲載した。

●ブログ更新記事一覧

公開日	内　　容	カテゴリー
2013.4.26	考古学セミナー「あいちの考古学2013」　発表のエントリーについて	展示・講演会
2013.5.8	展示換えの準備の様子	その他
2013.5.13	平成25年度　発掘調査予定遺跡	調査速報
2013.5.16	平成24年度刊行の調査報告書のPDF公開	その他
2013.5.20	報告書の紹介No.01　町屋遺跡　その１	その他
2013.5.23	岡崎市八畝畑遺跡の調査が始まりました	調査速報
2013.5.27	報告書の紹介No.02　清洲城下町遺跡XI　その１	その他
2013.5.30	平成24 年度年報と研究紀要14 号のPDF を公開	その他
2013.6.7	あいち考古楽市2013の告知	展示・講演会
2013.6.26	安城市五反田遺跡	調査速報
2013.7.3	岡崎市八畝畑遺跡　調査速報	調査速報
2013.7.5	第５回家族の絆事業　告知	調査速報
2013.7.23	考古学セミナー「あいちの考古学2013」プログラム発表	展示・講演会
2013.7.31	猪移遺跡　調査速報	調査速報
2013.8.7	栗狭間遺跡　調査速報	調査速報
2013.8.18	孫石遺跡　調査速報	調査速報
2013.9.13	栗狭間遺跡　調査速報	調査速報
2013.9.30	八畝畑遺跡　地元説明会の告知	説明会
2013.10.7	孫石遺跡　調査速報	調査速報
2013.10.10	孫石遺跡　調査速報	調査速報
2013.10.16	八畝畑遺跡　地元説明会の報告	説明会
2013.10.22	栗狭間遺跡　調査速報	調査速報
2013.11.5	孫石遺跡　説明会資料の公開	調査速報
2013.11.11	栗狭間遺跡　調査速報	調査速報
2013.11.15	報告書の紹介No.03　町屋遺跡　その2	その他
2013.11.22	土器の接合研修	調査速報
2013.11.27	栗狭間遺跡　調査速報	調査速報
2013.12.2	孫石遺跡　調査速報	調査速報
2013.12.12	報告書の紹介No.04　町屋遺跡　その3	その他
2013.12.17	トヨガ下遺跡　調査速報	調査速報

● News 記事一覧

公開日	内　　容	カテゴリー
2013.4.1	今日から4月です！　今月のギャラリーが更新されました。	その他
2013.4.26	考古学セミナー「あいちの考古学2013」発表のエントリー受付が始まりました！	その他
2013.5.1	今月のギャラリーが更新されました。	その他
2013.5.8	展示替えの準備の様子がアップされました。	その他
2013.5.13	平成25年度の発掘調査予定遺跡が公開されました。	埋文
2013.5.16	報告書のPDFが公開されました！	その他
2013.5.17	MyGalleryに新スライドショーが投稿されました！	その他
2013.5.20	報告書の紹介No.01　町屋遺跡- その１が掲載されました。	その他
2013.5.23	八畝畑（やせばた）遺跡の調査が始まりました！	埋文
2013.5.27	報告書の紹介No.02　清洲城下町遺跡XI- その１が掲載されました。	埋文
2013.5.30	平成24年度年報と研究紀要14号のPDFが公開されました。	その他
2013.6.2	今月のギャラリーが更新されています。	その他
2013.6.3	報告書の添付CD内の情報をアップロードしています。	その他
2013.6.7	平成25年度埋蔵文化財展「あいち考古楽市2013」の開催が発表されました。	その他

● FaceBook および Twitter への投稿記事

日付	概要
2013.6.13	埋文展の案内
2013.6.17	ポスターの発送作業
2013.6.26	五反田遺跡　調査速報
2013.6.28	下山詰所の案内
2013.7.2	埋文展　準備の様子
2013.7.3	八畝畑遺跡の調査速報
2013.7.5	家族の絆事業の案内
2013.7.8	埋文展　準備の様子
2013.7.10	埋文展　準備の様子
2013.7.12	埋文展　準備の様子
2013.7.16	埋文展　準備の様子
2013.7.19	埋蔵文化財展「あいち考古楽市 2013」の開催
2013.7.23	考古学セミナーあいちの考古学 2013 のタイムテーブル公開
2013.7.31	孫石遺跡 13A 区の調査速報
2013.8.1	バックヤードツアーのご案内
2013.8.3	土器どきワークショップ
2013.8.4	歴史連続講座２のご案内
2013.8.7	栗狭間遺跡の調査速報
2013.8.8	バックヤードツアーのご案内
2013.8.9	毎日体験プログラムのお知らせ
2013.8.16	歴史連続講座３のご案内
2013.8.18	孫石遺跡の調査速報
2013.8.21	バックヤードツアーのご案内
2013.8.23	いよいよ考古学セミナーです。
2013.8.29	バックヤードツアー　最終回のご案内
2013.9.2	ダウンロード可能な報告書の追加（その３）　名古屋城三の丸遺跡の PDF
2013.9.6	平成 25 年度　埋蔵文化財発掘調査業務委託の入札について
2013.9.9	ダウンロード可能な報告書の追加（その４）　清洲城下町遺跡の報告書 PDF
2013.9.13	栗狭間遺跡 13A 区の調査速報
2013.9.17	ダウンロード可能な報告書の追加（その５）　西尾市内と安城市内の報告書 PDF
2013.9.17	平成 25 年度　埋蔵文化財発掘調査業務委託の入札について
2013.9.20	平成 25 年度　埋蔵文化財発掘調査業務委託の入札について
2013.9.30	遺跡検討会の様子
2013.9.30	八畝畑遺跡（やせばたいせき）- 岡崎市 -　説明会のお知らせ＊
2013.10.7	孫石（まごいし）遺跡 - 豊田市ー　13C 区の調査成果
2013.10.10	孫石（まごいし）遺跡 - 豊田市ー　13B 区の調査成果
2013.10.16	平成 25 年度　埋蔵文化財発掘調査業務委託の入札について
2013.10.18	遺跡アルバムへの写真の追加　　第 173 集　上品野西金地遺跡
2013.10.22	栗狭間（くりはざま）遺跡の調査速報
2013.10.23	遺跡アルバムへの写真の追加　　第 174 集　西牧野遺跡
2013.10.24	下山ふれあいまつりの中止のお知らせ
2013.10.29	遺跡資料リポジトリへの登録が終了しました
2013.11.6	平成 25 年度　埋蔵文化財発掘調査業務委託の入札について
2013.11.11	栗狭間遺跡（豊田市）の解説資料を公開
2013.11.15	報告書の紹介～町屋遺跡 その２～
2013.11.18	愛知県陶磁美術館　南館の展示替え
2013.11.20	孫石遺跡　遺跡検討会
2013.11.22	土器の接合研修
2013.11.25	遺跡アルバムへの写真の追加　　第 175 集　下津宿遺
2013.11.27	栗狭間（くりはざま）遺跡の調査速報
2013.11.29	遺跡アルバムへの写真の追加　　第 178 集　東中田 A 古窯
2013.12.2	孫石（まごいし）遺跡の調査速報
2013.12.3	ファミスポフェスタ 2014 の案内
2013.12.6	遺跡アルバムへの写真の追加　　第 180 集　滝町古窯
2013.12.12	遺跡アルバムへの写真の追加　　第 179 集　町屋遺跡
2013.12.17	トヨガ下遺跡　調査速報　その３
2013.12.19	遺跡アルバムへの写真の追加　　第 181 集　桑下城跡
2013.12.26	遺跡アルバムへの写真の追加　　第 183 集　清洲城町遺跡
2013.12.27	遺跡アルバムへの写真の追加　　第 187 集　別岨古窯群
2014.1.16	期限付任用職員募集のお知らせ

公開ファイル

報告書PDF	170件
説明会資料	52件
年報PDF	234件
研究紀要PDF	94件
その他チラシ類	11件
まいぶん愛知PDF	32件
遺跡位置登録	229件
遺跡アルバム	32,626点

今年度は、従来の刊行された報告書に加え、清洲城下町遺跡および名古屋城三の丸遺跡の刊行済みの報告書、西尾市域と安城市域の発掘調査の報告書を、OCR済みのPDFで公開した。また今年度、島根大学、奈良文化財研究所が中心になって推進されている「全国遺跡資料リポジトリ」に、130冊を登録した。

アクセスログに関して

６月にソーシャルネットワークのTwitterとFaceBookの２種類を導入し、「ニュース」コンテンツの更新を中止した。その結果、「ニュース」へのアスセス数は減少する傾向が現れた。最近３年間のトップページへのアクセスログを確認すると、「ニュース」コンテンツへのアクセスは、トップページへのアクセス数が減少しているのも関わらず、増加してゆく傾向が確認された。

また2012年４月にトップページのレイアウトを変更し、サイドメニューに画像を用いたリンクボタンを設置した。その結果、報告書関連ページやPDF関連ページ、考古学入門講座へのアスセス数が増加した。しかし、変化が見られないコンテンツも存在した。子供向けコンテンツ、展示会情報・資料紹介（こだわりの一品）、写真関連（遺跡アルバム、今月のギャラリー、マイギャラリー）、アーカイブデータ（朝日遺跡８、３Dデータ）のコンテンツである。子供向けコンテンツは、子供用検索サイトからの直接コンタクトが多いことが、ログの解析から確認されている。この子供向けコンテンツは、弥生時代を中心とした「弥生神」と「ようこそぱれーす遺跡へ」、戦国時代の清洲城下町遺跡を中心とする「信長が夢見た城下町」の合計３本がある。このうち、弥生時代に関するコンテンツは4・5月にアクセスが集中し、戦国時代に関するものは夏休みの前後にヒット数がのびている。この傾向は、最近３年間で同様である。またログの解析をすると、当サイトへの検索の言葉としては「愛知県埋蔵文化財センター」が常に大半をしめ、「織田信長」「弥生時代」等がみられる。そのうち、春には「縄文時代」や「弥生時代」などの言葉が増え、夏前には「織田信長」「戦国」などの言葉が多くみられる様になる。

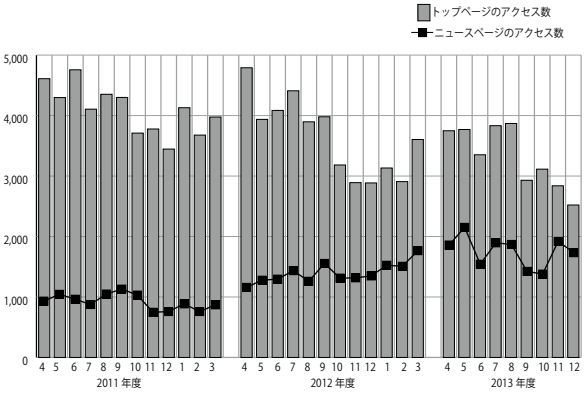
展示会情報や資料紹介、写真関連ページは、いずれも来訪者に興味関心を持ちやすい様にと企画したコンテンツであるが、レイアウトの変化には連動していない。報告書掲載写真をあつめた「遺跡アルバム」へのアクセスを増やそうと、「今月のギャラリー」や「マイギャラリー」を開設したが、目的は果たされていないようである。利用のための工夫が必要である。（堀木真美子）



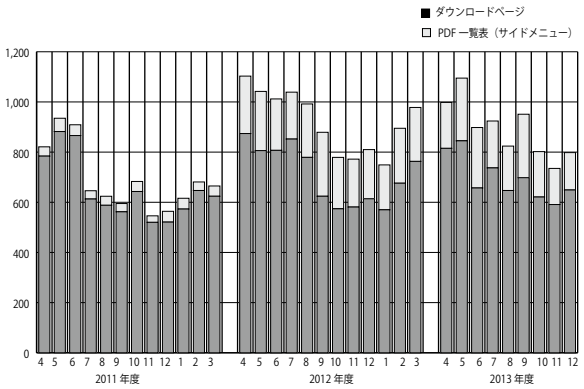
▲2011年度までのサイト



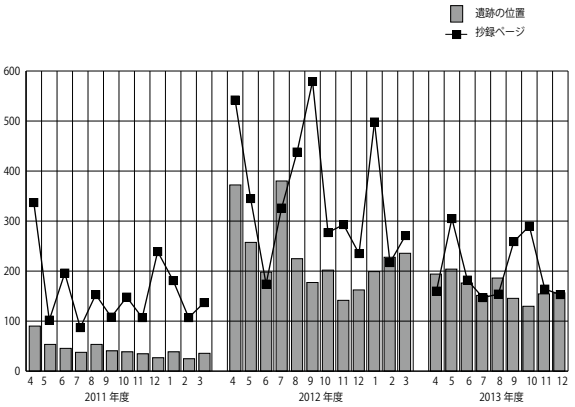
▲2012年4月以降のサイト



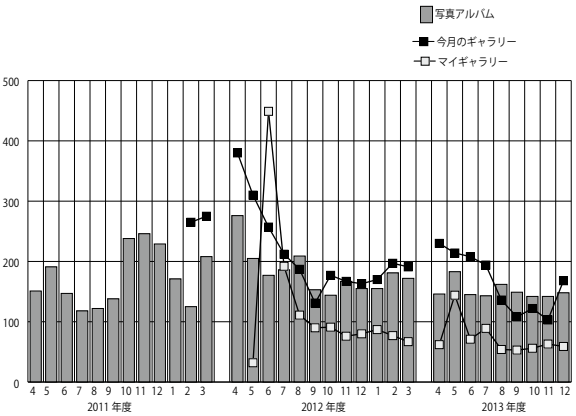
▲トップページとニュースのアクセス数



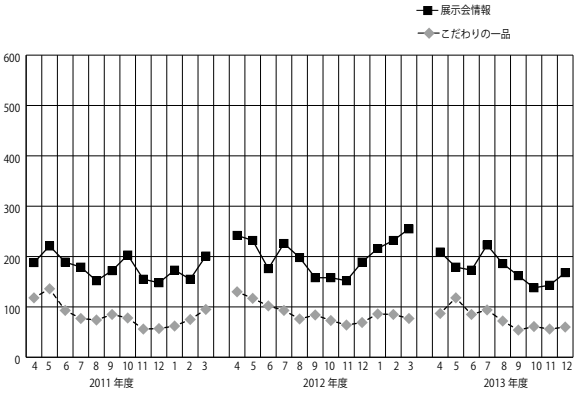
▲PDF 関連ページのアクセス数



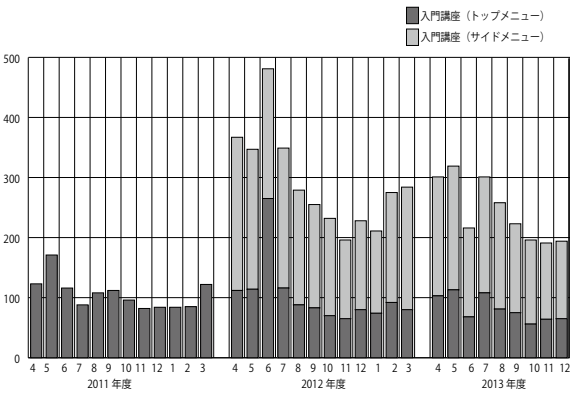
▲報告書関連ページのアクセス数



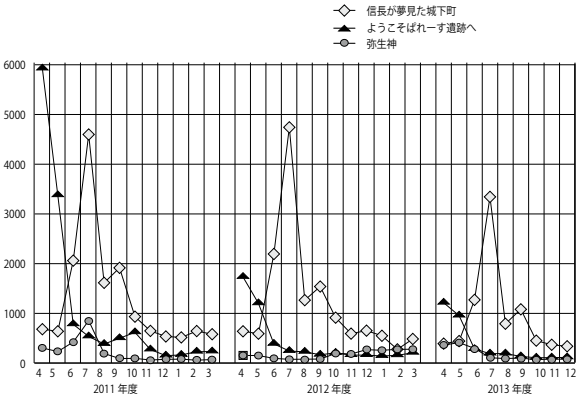
▲写真関連ページのアクセス数



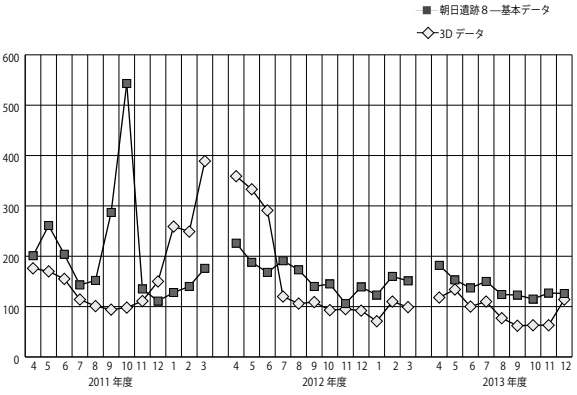
▲展示会情報等のアクセス数



▲入門講座のアクセス数



▲子供向けコンテンツのアクセス数



▲アーカイブデータページのアクセス数

地元説明会・遺跡報告会

遺跡名	所在地	開催日	参加人数	
八畝畑遺跡	岡崎市正名町	平成25年10月5日（土）	257名	地元説明会
寄島遺跡・下懸遺跡	安城市小川町	平成26年2月1日（土）	33名	地元説明会
栗狭間遺跡	豊田市下山田代町	平成25年12月1日（日）	（於 下山交流館）上半期成果報告会	
孫石遺跡	豊田市下山田代町	平成25年12月1日（日）	（於 下山交流館）上半期成果報告会	
トヨガ下遺跡	豊田市下山田代町	平成26年2月22日（土）	（於 下山交流館）下半期成果報告会	

報告書作成のための指導

遺跡名	指導日	指導者	所　属
石岸遺跡	平成25年6月14日（金）	平井義敏	みよし市教育委員会
松崎遺跡・上浜田遺跡	平成25年9月21日（土）	立松　彰	東海市平洲記念館館長
		森　泰道	豊田市教育委員会
		畑中智史	東京大学総合博物館
一色青海遺跡	平成25年11月9日（土）	深澤芳樹	前 奈良文化財研究所副所長
一色青海遺跡	平成25年11月25日（月）	山田昌久	首都大学東京教授
車塚遺跡	平成25年11月28日（木）	城ヶ谷和広	愛知県立旭丘高校教頭
欠下城跡	平成26年1月24（金）	藤澤良祐	愛知学院大学教授

発掘調査現場における遺構・遺物などの指導

遺跡名	指導日	指導者	所　属
栗狭間遺跡	平成25年7月2日（火）	山田昌久	首都大学東京教授
栗狭間遺跡	平成25年9月18日（水）	渡辺　誠	名古屋大学名誉教授

その他普及事業

家族の絆づくり事業『家族で歴史を体感』（第5回）

日時：平成25年８月３１日（土）午前9:30～午後5:20
対象：小中学生とその家族
参加者：8家族（23名）
内容：

◆午前：埋文展観覧
（弥富市歴史民俗資料館・埋蔵文化財センター）
◆午後：八畝畑遺跡（岡崎市）にて
発掘および遺物洗浄作業の体験

（貸し切りバスで移動）
9:30埋蔵文化財センター集合→弥富市歴史民俗資料館・埋蔵文化財センター（展示観覧）…（昼食）…12:30（バス移動）→14:00八畝畑遺跡（体験発掘等）→15:30（バス移動）→17:00埋蔵文化財センター到着・解散

体験発掘バスツアーのごあんない



参加募集案内 チラシ

平成25年度　愛知県埋蔵文化財センター　組織一覧

運営協議会委員

足立　守	名古屋大学 PhD 登龍門推進室特任教授
石井悦雄	愛知県都市教育長協議会会長 江南市教育委員会教育長
稲葉伸道	愛知県教育委員会生涯学習監
加藤安信	大同大学大同高等学校校長
柴垣勇夫	愛知淑徳大学教授
杉浦章司	愛知県教育委員会生涯学習監
難波洋三	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター長
藤澤良祐	愛知学院大学教授

専門委員

考古学	伊藤秋男	南山大学名誉教授
考古学	柴垣勇夫	愛知淑徳大学教授
文献史学	福岡猛志	日本福祉大学名誉教授
地理学	海津正倫	奈良大学教授
建築史学	麓　和善	名古屋工業大学大学院教授
考古学 **動物学** **植物学**	渡辺　誠	名古屋大学名誉教授
形質人類学	多賀谷　昭	長野県看護大学教授
保存科学	高妻洋成	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所　埋蔵文化財研究所 保存修復学研究室長
岩石学	諏訪兼位	名古屋大学名誉教授
木材組織学	木方洋二	名古屋大学名誉教授

センター長

平松栄一

副センター長

赤塚次郎

管理課

管理課長	浅井重一	
主　査	森　清	
	下野直樹	
主　事	藁科有紀子	

調査課

調査課長	石黒立人	
統括専門員	宮腰健司	
主任専門員	酒井俊彦	池本正明
調査研究専門員	松田　訓	鈴木正貴
	樋上　昇	堀木真美子
	永井宏幸	鬼頭　剛
	武部真木	
調査研究主任	蔭山誠一	川添和暁
	永井邦仁	早野浩二
嘱託員	小澤一弘	

年報　平成25年度

平成26年3月
編集・発行　(公財) 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
印　刷　栄印刷株式会社